

(仮称)国際センター駅北地区複合施設基本構想(中間案)に関するご意見に対する仙台市の考え方

※「仙台市の考え方」の(P●)は、基本構想において関連する記載をしているページを指します。

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
1	都心部との回遊をしやすくするため、いま再開発を進めている定禅寺通りとあわせて考えてほしい。市民会館後から赤門あたりに歩行者、自転車だけの橋を作ってほしい。	本市では令和5年3月に「仙台・青葉山エリア文化観光交流ビジョン」を策定し、その中で青葉山エリア内及び都心との回遊性の向上に向けた取組みの方向性をお示しいたしました。具体的な取組みについては、青葉山エリアに関する様々な主体と連携しながら検討を進めてまいります。
2	①多様な実演芸術・舞台芸術リハーサル室とあるが、音楽ホールであれば音楽以外の内容は無くすべきではないか。劇都仙台であれば演劇専用の劇場は今回のホールとは別個に建設することが必須であろう。また本格的オペラの上演を想定するのであれば多面舞台(3面舞台、4面舞台)やオーケストラピットの設置は必須であるが今回想定している予算で実現可能なのか。ホールが出来てからこれは余計だったということのないよう、施設の性格・内容はさらなる精査吟味が必要であると思われる。 ②施設の外観としては福岡にあるアクロス福岡のような壁面緑化を導入すべきと考える。	①につきましては、音楽ホールは、現在の本市の文化芸術活動やホール施設の状況を踏まえ、「仙台の文化芸術の総合拠点」を基本方針として掲げ(P17)、クラシック音楽やオペラ・バレエなど多様な実演芸術の上演が可能な大ホールに加えて、練習から公演まで一連の創造プロセスに対応するため(P19)、音楽・舞台芸術の2つのリハーサル室等を備えることとしております(P40、P41)。 ホール等の詳細な仕様につきましては、基本計画策定や設計の段階においてさらに精査を行ってまいります。 演劇につきましては様々な規模・形態がございますが、本施設と既存の市内施設が適切に連携・役割分担し、「劇都仙台」の更なる振興を図ってまいります。 ②の緑化につきましては、「必要かつモデルとなる敷地内緑化を行う」ことを基本構想に掲げ(P7)、具体的な手法につきましては今後検討を進めてまいります。
3	音楽ホールについては、来場者が使いやすく、宮城県・仙台市の特色が活かされたものにしてほしい。	大ホールにつきましては、生の音源の響きに対する優れた音響性能の実現という視点を最重視しつつ(P39)、客席からの視認性や座席の快適さについても十分に配慮してまいりま

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
	<p>山形市のやまぎんホールは座席も非常に座り心地よく、音響も素晴らしかった。</p> <p>新しいホールでも「舞台の見えにくさ」「音響の悪さ」「お手洗いの少なさ」について耳にするが、やまぎんホールは2階3階ホールの手すりが舞台にかからず、バルコニー席でも見切れなく、また建物内にお手洗いやコインロッカーが十分にあって気持ちよく観劇できた。</p> <p>地元で 2,000 席規模のホールができるなら、公演に楽しく集中するため、客席からの見えやすさ、使い勝手をぜひ検討いただきたい。</p> <p>完成を楽しみにしている。</p>	<p>す。</p> <p>また、トイレの数について、大ホールの収容人数や来場者の男女バランス、公演の休憩時間に利用が集中すること等を想定の上、適切な数を整備するなど、利用者の皆様にとって使いやすい施設となるよう今後とも検討を進めてまいります。</p>
4	<p>複合施設は震災復興、音楽ホールを文化的commonsと位置付けているが、仙台の”戦災復興”という大きな「復興」が抜けている。</p> <p>施設の老朽化と言う観点で「コスト」に重点を置いているが、戦後復興のあゆみを学ぶ場が失われてしまう懸念がある。文化的commonsとして国際センター駅北地区に複合施設を整備するならば、そこは切り離して「戦災復興記念館」の更新を考えることはできないのか。戦後復興の学びの場として、多くの人々が「戦災復興記念館」を活用できる場にすることを提案したい。</p> <p>戦後復興は日本中で行われていた動かすことのできない歴史的事実でもあり、仙台の戦災復興記念館は国内で5番目に整備された画期的な公立施設である。この館が建つ場所は空襲で大きな被害があった場所であり、他地域からもこの点について評価が高く、東北の小中学校が学習の場として修学旅行の際、見学に訪れる場所でもある。子供から大人まで戦争の非情を学ぶことで、今世界で起こっている出来事に広く関心が持てるようになる。</p> <p>30年近くかかった戦後復興を震災からの復興と共に未来へつなげることが、仙台という地の歴史的記憶を支えることを考えていただきたい。</p> <p>「老朽化して維持管理のコストがかかるから廃止」という理由では納得がいかない。平和を</p>	<p>戦災復興記念館は仙台空襲や戦災復興事業に係る記録の保存・展示機能を有し、戦災復興展を開催するなど、本市の戦災復興の資料及び記録を総合的に展示し、市民の努力とその成果を記念する役割を担っております。また、270席の記念ホールがあり、音楽など様々な市民発表会の場としても広く利用されております。</p> <p>令和2年度に行った市内ホール施設の体系整理において、戦災復興記念館は、開館後40年以上が経過している状況も踏まえ「音楽ホール整備後、施設の更新を行わない方向での検討が望ましい」といたしました。これは戦災復興記念館のホール機能に着目した整理であり、保存・展示機能の今後や運営等について併せて検討することを前提としたものでございます。</p> <p>本基本構想P66は、このことに関する記載が不足しておりましたので、いただいたご意見を踏まえ、上記の内容を明記する形に文章を修正いたします。</p> <p>なお、戦災復興記念館が果たしてきた戦災記録の保存・展示施設としての役割につきましては、本施設への機能移転は想定していないところですが、その重要性を十分に踏まえ、関係資料の適切な保存や効果的な展示等に係る現状や課題等を整理しながら、どのように存続させるかの検討を進めてまいります。</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
	土台に文化が成り立つことを考えてほしい。	
5	<p>①なぜこの場所なのか。近くに萩ホールや国際センターのホールもあるのに。東西線があるから利便性が良いというが、自宅からバスや電車、南北線利用者は仙台駅で乗り換えしたり、周りに飲食店がないので何処かに寄る必要がある。利便性が良いというのは、山形のやまぎんホールのような場所の事だと思う。仙台駅前のさくら野跡地などを活用しては。もしくは緑化フェアをしている追廻地区。隣県や仙台市郊外など車で利用したい人には駐車場は必要なので残してほしい。中心部に住む人間を中心に考えているとしか思えない。</p> <p>②震災関連施設は荒井地区にあるのにまたお金をかけて作るのかと疑問もある。そのお金を別な事に使ってほしい。</p>	<p>①につきましては、国際センターは学会や展示会などの開催を想定した会議場、萩ホールは音響性能を重視しつつ学術会議機能を備えた大学施設であり、「仙台の文化芸術の総合拠点」を基本方針に掲げる音楽ホールとは異なる役割・機能を有しています。こうした文化・歴史・学術資源が集積する青葉山エリアに立地し、既存施設と連携することで、エリア一体の特徴や魅力がより一層引き出されるものと考えております（P5,P52 など）。飲食につきましては、施設内にカフェ・レストランを設ける方向で検討を進める他、都心部との回遊性向上についても検討していきます。</p> <p>駐車場につきましては、周辺の交通状況もあり、できる限り公共交通機関等で来場いただきたいと考えております。そのうえで、敷地内に一定の駐車場を整備する予定であり、基本計画策定過程において適切なあり方・規模の検討を行ってまいります（P55）。</p> <p>②につきましては、本市には既に沿岸部の被災や復興を知り学ぶ施設としてせんだい 3.11 メモリアル交流館が、津波の脅威を体感できる施設として震災遺構仙台市立荒浜小学校がございますが、今後も発生する大災害に備えるため、市域全体で震災を風化させず、さらに 3.11 以外の災害を学ぶ拠点を中心部に整備し、沿岸部と連携して伝承活動等を行うべきとの震災復興メモリアル事業の方針により今般の複合施設整備を進めております。</p>
6	<p>私はこれまでせんだい 3.11 メモリアル交流館（開館時や一部の企画展）や山元町の震災遺構の展示に関わってきた。</p> <p>その中で、災害の「メモリアル」とはなんだろうと考える機会が何度もあった。ひとつにはもちろん「記録を残す」ことであり、もうひとつは「(起きては欲しくないが)また将来ここで、ある</p>	<p>災害と都市を俯瞰する中心部震災メモリアル拠点が、災害の「現場」と連携しながら広く知恵や経験を共有・補完する役割を果たすこと、また、仙台のまちの歴史を知り学ぶ場となるべきとのご意見を踏まえ、今後の検討を進めてまいります。</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
	<p>いは別のどこかで同じ災害があったときに、その人たちが生き延びられる知恵を紡いでいくこと」であろうと考えている。</p> <p>一方で音楽という芸術の存在にも関心は強く、音楽によって心が安らいだり、救われたり、前へ進むという勇気付けになったりすることも実感として感じている。</p> <p>その2つが統合されて存在するならば、それは今の人だけでなく未来へ向けての願いや祈りのような価値のあるものになりうる。</p> <p>その上で、震災復興と同じ「復興」の名を冠している戦災復興のことを、仙台に暮らす中で全然意識せず暮らしていることにも気付いた。</p> <p>青葉山は中心の都市部とは川を挟んで離れており、震災（特に津波被災）の現場からは離れた、ある意味で客観的な視座を持てる場所である。そしてまた、仙台での空襲で燃え盛った街を川の向こうに見ていた場所でもあるのかと思う。</p> <p>青葉山を「街を俯瞰する仙台城のある山」とするならば、戦災・震災をともに見つめてきた場所であり、それぞれの「大きな災害を乗り越えてきた記録と記憶」を残すに相応しい場所だと思う。</p> <p>災害文化を何とするかは議論があるが、起こってしまう災害に対しどう向き合うのかという文化の醸成の面は大きい。地震や津波はまた起きうるが、戦争もまた（まさに去年から生々しく突きつけられている現実として）無くすことが難しいものである。その中でどう生きてきたのかもまた、災害文化とは切り離せないものである。</p> <p>災害の「現場」を語れる、荒浜小、メモリアル交流館、戦災復興記念館。そして災害と都市を俯瞰する中央拠点。相互に行き来しながら補完し合える、世界に対して（あるいはお互いに）経験や知恵を提供・共有できる場所になると良い。また今の仙台という街が様々な歴史の上にあることを知ることで、より深く街に対しての想いを抱けるようになるとも思う。</p>	

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
7	<p>基本的な考え方のうち</p> <p>1)「いつ来ても居場所があり」「開かれた施設」</p> <p>2)「全ての人が利用できる」</p> <p>について、市民が「確かに」と思える施設にして頂きたい。</p> <p>メディアテークは開放的な空間に共有ベンチがあって図書館やイベントの来訪者以外の来訪者も受け止めてくれる余裕がある。定禅寺通グリーンベルトも同じくふらっと立ち寄って小休憩を取れる雰囲気がある。宮城野区中央市民センターは受付奥の事務所まで見えるのが役所を彷彿させる空間でありメディアテークのような気軽さはなく、休憩スペースも閉じられた空間で気楽に休めない。テーブルがあるため少人数で短時間の打合せには助かるが、小集団が陣取っていることが多くて気が休まらない。街中の建物であっても京都駅屋上の休憩スペースは座席位置や造作物の配置に工夫があって他者の存在は感じつつも煩わしく感じない。ここは多くの市民と観光客が集って交流できる、個人的に好きな空間である。このような空間が仙台にもあればよいのと思う。そのような空間を仙台に設けるのであれば国際センター駅北側の建物は最適ではないかと思う。</p>	<p>本施設は、基本理念である「人・文化・まちを育む創造の広場」(P8)の実現のため、施設の基本的な考え方として、「青葉山エリア内の他施設を来訪目的とする人、あるいは特に目的を持たない人でも、気軽に立ち寄りや通り抜けができるような、開かれた施設づくり」を掲げています(P34)。誰もがいつでも訪れ、憩える「交流イベントロビー」をはじめ、各所に居場所となる空間・開放的な空間を設けたいと考えております。屋外広場についても同様に、誰もが気軽に集い、憩うことのできる環境を目指しております(P38,P44)。ご教示いただいた事例を参考としながら、魅力的な空間づくりを目指してまいります。</p>
8	<p>東北地方は関東や関西、中国、九州にくらべて空襲被害が少なく、数少ない被災状況をこれからの社会を担う若い人達に戦争をした結末を伝える場所として、仙台の空襲被害を伝える場として、仙台市にもぜひ近世の歴史の一部として展示されることを望む。</p>	<p>仙台空襲や戦災復興事業に係る資料及び記録の保存・展示や戦災復興展の開催、市民の努力とその成果の記念については、戦災復興記念館がその役割を担っております。令和2年度に行った市内ホール施設の体系整理において、戦災復興記念館は、開館後40年以上が経過している状況も踏まえ「音楽ホール整備後、施設の更新を行わない方向での検討が望ましい」といたしました。これは戦災復興記念館のホール機能に着目した整理であり、保存・展示機能の今後や運営等について併せて検討することを前提としたものでございます。本基本構想P66は、このことに関する記載が不足しておりましたので、いただいたご意見を踏まえ、上記の内容を明記する形に文章を修正いたします。</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
		<p>なお、戦災復興記念館が果たしてきた戦災記録の保存・展示施設としての役割につきましては、その重要性を十分に踏まえ、関係資料の適切な保存や効果的な展示等に係る現状や課題等を整理しながら、どのように存続させるかの検討を進めてまいります。</p> <p>本施設に戦災復興記念館の保存・展示機能を移転することは想定していないところですが、災禍からの復興や経験と教訓の伝承という視点が災害伝承に共通すること、理念として「様々な『過去』にまなざしを向け、今を生きる人の糧とし、それをより良い『未来』づくりに生かす」(P8)ことを目指していることから、他施設との連携・協働事業などを通じ、本市の歴史を次世代に伝えていけるよう検討を進めてまいります。</p>
9	<p>今回の計画のなかで戦災復興記念館の廃止が盛り込まれていると聞いた。音楽ホールと震災とを結びつけ、復興の象徴とするという目的は良いものと思うが、その時に戦災の記念館をなくしてしまうというのは非常に悲しい。震災と同じく、戦災も多くの人びとを犠牲にした哀しい出来事には変わりはないのに、古くなったら、別の出来事が起きたら壊されてしまう。これは新しくできる音楽ホールにとっても、数十年後に古くなったらもう過去のことだからと、記憶の継承もされず壊され、忘れ去られていくのではないかと暗示させてしまうのではないかと。何年たっても、何百年たっても、多くの人びとが亡くなってしまった悲しい歴史を語り継ぐ、そしてその場が引き継がれていくことが、遺族の慰めとなり、復興の礎となっていくのではないかと。震災の復興のために、過去の戦災犠牲者のための施設を潰すようなことはしてほしくない。何か融合できる形を考えてほしい。</p>	<p>戦災復興記念館は仙台空襲や戦災復興事業に係る記録の保存・展示機能を有し、戦災復興展を開催するなど、本市の戦災復興の資料及び記録を総合的に展示し、市民の努力とその成果を記念する役割を担っております。また、270席の記念ホールがあり、音楽など様々な市民発表会の場としても広く利用されております。</p> <p>令和2年度に行った市内ホール施設の体系整理において、戦災復興記念館は、開館後40年以上が経過している状況も踏まえ「音楽ホール整備後、施設の更新を行わない方向での検討が望ましい」といたしましたが、これは戦災復興記念館のホール機能に着目した整理であり、保存・展示機能の今後や運営等について併せて検討することを前提としたものでございます。</p> <p>本基本構想P66は、このことに関する記載が不足しておりましたので、いただいたご意見を踏まえ、上記の内容を明記する形に文章を修正いたします。</p> <p>なお、戦災復興記念館が果たしてきた戦災記録の保存・展示施設としての役割につきましては、本施設への機能移転は想定していないところですが、その重要性を十分に踏まえ、関係資料の適切な保存や効果的な展示等に係る現状や課題等を整理しながら、どのように</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
		<p>存続させるかの検討を進めてまいります。</p>
10	<p>建設ありきの検討が透けて見える中、事業費 350 億円という巨額の予算を投入するだけの価値があるとは思えないので、事業計画は凍結か廃案とすべきである。市庁舎建設費用も膨大で、市の財政破綻が懸念される。財政当局は異議を唱えるべきである。</p> <p>オペラ公演もできるような世界に誇れる音楽堂建設をと市長は言うが、果たして、人口減少、クラシック愛好家の減少傾向の中で、建設後施設を維持する明確な運営、収益資産も明らかでなく、正に夢物語の構想としか思えない。後代に負担を強いるべきではない。</p> <p>どうしても 2000 席の音楽堂が必要というなら、県民会館建設を目指している宮城県と調整し無駄な支出は控えるべきである。</p>	<p>本市では、長年にわたり多くの市民の皆様から本格的なホール施設整備のご要望をいただいております。開館後40年以上が経過した市民会館・戦災復興記念館のホール機能の受け皿が必要であることや、仙台国際音楽コンクールや市民主体の活発な活動など文化芸術面の蓄積、未来に向けた魅力ある都市文化の創造といった観点からも、本施設は整備が必要な施設であると認識しております。</p> <p>また、令和2年度に実施した需要想定調査によって、新たな県民会館の整備後においても十分な需要が見込めることを確認しております(P59~P68)。</p> <p>今後、整備費の精査や財源確保に努めるとともに、文化芸術・災害文化の側面から教育や福祉の向上に寄与する事業を積極的に行うなど、多様な社会的価値を創出することで、一部の愛好家にとどまらない多くの市民の皆様にとって誇りとなる施設を目指してまいります。</p>
11	<p>国内外のホールでいろいろなジャンルの公演を観てきましたのでマルチジャンルに対応ができるホールができることを楽しみにしている。</p> <p>配信等に対応できる、収録に対応できることを考えてほしい。</p>	<p>音楽ホールの大ホール・小ホールは、生の音源に対する音響を重視しつつ、多様な舞台芸術にも対応したものといたします(P39,P40)。また、配信等を含めた先端技術に対応できる施設となることを重視し(P35)、検討を進めてまいります。</p>
12	<p>私は仙台商業高等学校の関係者であり、あの地に愛着を持っている。</p> <p>施設の計画については当局に一任するが、附近周辺の立地整備計画を楽しみに期待している。協力したい。</p>	<p>本施設の基本理念の説明の中では、「様々な『過去』にまなざしを向け、今を生きる人の糧とし、それをより良い『未来』づくりに生かしていく」と記載しており(P8)、当地に仙台商業高等学校があったことを含め、本市のこれまでの歩みに目を向けながら事業を展開してまいります。</p>
13	<p>基本計画の策定にあたり、どのような発注を想定しているのか。基本計画にも、ソフト的な</p>	<p>基本構想の策定にあたっては、調査や課題検討等の支援業務を事業者に委託しております</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
	<p>内容を精査していくものと整備手法的な内容を詰めていくものがあり、どちらかに偏ることが多々見受けられる。それは発注の仕方によって変わるといえる。</p> <p>例えば、本編 P47 に整備手法について書かれており、ここで PFI は性能発注であると書かれているが、デザインビルドでも性能発注ができる。これを記述した事業者はソフトに傾斜しており、その辺が弱い事業者なのかなと思った。そのような発注をしていくと、整備手法がぶれたり、偏ったりする。</p> <p>今年度下期の発注となるのであろうが、そのあたりをどのように考えられているのか。</p>	<p>が、基本構想自体は有識者懇話会の議論や市民意見を踏まえながら本市が作成しております。</p> <p>整備手法（従来型分離発注方式、PFI方式など）につきましては、本施設の特性や魅力ある施設づくりという視点を念頭にそれぞれのメリット・デメリットを整理の上、「仙台市PFI活用指針」に定められた手続き等を実施し、基本計画段階での整備手法の決定に向けた検討を進めてまいります。</p>
14	<p>①大ホールは歌舞伎の対応はどう考えているか。ジャンルが増えてよいのではないか。歌舞伎は平日も人が来てくれる、ホールを活用できるということで、歌舞伎を是非にと思っていった。そのためには花道を整備することができると思う。</p> <p>②幕間に軽飲食のできるカフェスペースがあるのか。クロークはクラシック、ミュージカルを楽しむ方には大事ではないか。</p> <p>③仙台市民に対する割引などのメリットがあるとありがたい。</p>	<p>①につきましては、音楽ホール大ホールは生の音源に対する音響を重視しつつ、多様な舞台芸術にも対応する想定であり（P39）、全国を巡回している歌舞伎公演等の上演も可能と考えております。仮設花道など、施設がどういった備品を持つかにつきましては、舞台や客席の形状等も踏まえながら、今後検討を進めてまいります。</p> <p>なお、現在は宮城県民会館で定期的に歌舞伎公演が開催されており、県・市の施設で適切に役割分担を図ってまいりたいと考えております。</p> <p>②につきましては、基本計画や管理運営の方針の策定過程において、いただいたご意見を踏まえながらカフェスペース、クローク等の具体的な検討を進めてまいります。</p> <p>③につきましては、施設利用者数や収入を増やすため、施設の管理運営者には様々な工夫・努力が求められます（P50）。様々な文化施設の事例を参考に、会員制度や割引チケット等の手法が検討されることが望ましいと考えております。</p>
15	①オペラ・バレエもできるホールであることについては賛成。立地場所も賛成。	①につきましては、音楽ホール大ホールはオペラ・バレエ等の上演を想定し、オーケストラピ

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
	<p>オペラ・バレエを行うには、オーケストラピットや、照明を操作するシステム等が必要である。</p> <p>また、オペラやバレエのストーリーや演出者の意図を理解し、それに合わせて照明を操作できる能力、技術を持った人材スタッフが必要である。オペラやバレエを継続して実施している施設から話を聞いて進めてほしい。</p> <p>オペラは、合唱団が付随する。ものによっては少年・少女合唱団も参加することもある。それらの控室、楽屋となるスペースが必要である。</p> <p>バレエやミュージカルは女性客が多いが、有名な施設でもトイレの数が足りない。女性用は充実させてほしい。</p> <p>日本の芸能、文楽、和太鼓、三味線、箏曲等を想定しているのか。</p> <p>クロークは、日本は無料であるが、海外は有料のところもあり、有料でもよい。</p> <p>②施設を造ったあと、維持管理費がかかる。長期修繕計画を立てるべきである。</p> <p>運営費は、例えば法人から協賛金を組織的に集める仕組み、また、個人から少額でも寄付を集めるような仕組みを考えるべきである。建てる前からこういったことを考えてほしい。</p>	<p>ットをはじめとする必要な設備を整備する方針です(P39)。また、舞台技術(舞台機構、舞台照明、舞台音響など)に関する専門の人材は重要であると考えており、人材の登用のあり方についても検討を進めてまいります(P24)。</p> <p>楽屋につきましては、大ホール・小ホールそれぞれに適切な数を備えるとともに、大規模な団体が出演する際にはリハーサル室や練習室、ワークショップゾーンの諸室などを活用することを想定し(P34)、それを前提に基本計画や設計を進めてまいります。</p> <p>トイレにつきましては、大ホールの収容人数や来場者の男女バランス、公演の休憩時間に利用が集中すること等を想定のうえ、十分な数を整備してまいります。</p> <p>文楽、邦楽等につきましては、大ホール・小ホールともこうした演目に特化した施設とする想定ではないものの、多様な舞台芸術にも対応する想定であり(P39,P40)、上演が可能と考えております。</p> <p>クロークの運用につきましては、いただいたご意見も踏まえながら、今後、管理運営の方針を定める中で検討してまいります。</p> <p>②の長期修繕計画につきましては、本市では安心して利用できる公共施設を将来にわたって持続的に提供するため「仙台市公共施設総合マネジメントプラン」を策定しており、本施設もこのプランに則って計画的な管理・保全を行ってまいります。</p> <p>運営費につきましては、「稼働率の向上、企業協賛金・寄付金等の外部資金獲得、事業収入を高めるための販売戦略といった収入増の取組み、業務改善など支出減の取組みを不断に行い、可能な限り自治体の負担を減らすことが求められる」と基本構想に記載しており(P50)、今後、施設の管理運営者が創意工夫を最大限発揮できる方策などを検討してまいります。</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
16	<p>「2,000 席規模の音楽ホール」を！市民会議は、初期のころは非常に活発な活動をされていたと思うが、最近はどうなっているのか。あのような盛り上がりが継続出来たらよい。</p>	<p>当該市民会議は、宮城県吹奏楽連盟、宮城県合唱連盟、仙台オペラ協会、音楽の力による復興センター・東北を構成団体とし、コンサートの開催や市長との意見交換などの活動を行っています。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、最近は大きな活動は行っていなかったと聞いておりますが、本施設の整備検討が本格化するのに併せ、改めて当該団体との意見交換などを行ってまいります。</p>
17	<p>音響と感染対策の両面の観点から、次の提案をする。</p> <p>音響については、全体が一体で伝わり、同時にその中に細部も「探せる」べきである。全ての音、響きが止められることなく進捗し、空間を浮遊して減衰し次の音が来る、と云うものこそ、音楽的且つ芸術的である。</p> <p>音楽ホールの形状については「播り鉢型」を奨めたい。音響的にはパラボラアンテナ的な利点があり、全方向の音が中央に集約し、気球が上がるように上方に漂うので、そこから分解された音が落ちてくると云う特異な響きが生まれる。また、観客席は互いに誰一人向き合わないで感染対策になる。</p> <p>ホール自体の響きを良くするため、全壁面を木の板で構成したい、その際、壁板は音波で振動するように小さめの単板が固定されず遊びのある状態で支持されること。</p> <p>客席にクッションがついていると高音が聞こえなくなるため、優秀な木工職人の技術で木材でも座り心地の良いデザインを。</p> <p>定在波が発生して響きを消してしまうため、直角の箇所はなくす。</p> <p>建造後、響きすぎる場合などには和紙を用いるなど対策法はある。</p>	<p>大ホールにつきましては、生の音源に対する音響を重視したホールを目指しております（P39）。ホールの形状・材質等につきましては、基本計画策定や設計の段階等においてより具体的に検討してまいります。</p> <p>また、優れた音響性能の実現のためには音響設計が重要であると認識しており、音響設計者の選定や業務推進体制、ホールの音響模型実験の必要性などを含め、効果的なあり方を検討してまいります（P45）。</p>
18	<p>戦災復興記念館の存続について意見を述べたい。</p> <p>戦災復興記念館には小中学生たちが学びの場として修学旅行の際に訪問しており、地域</p>	<p>戦災復興記念館は仙台空襲や戦災復興事業に係る記録の保存・展示機能を有し、戦災復興展を開催するなど、本市の戦災復興の資料及び記録を総合的に展示し、市民の努力とそ</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
	<p>でも空襲の事実や状況を伝えるものが少なくなる中で、貴重な学びの場となっていると聞いている。</p> <p>空襲や戦争を体験した人が少なくなる今後こそ、こうした施設の必要性が増しており、廃止とすべきでない。</p>	<p>の成果を記念する役割を担っております。また、270席の記念ホールがあり、音楽など様々な市民発表会の場としても広く利用されております。</p> <p>令和2年度に行った市内ホール施設の体系整理において、戦災復興記念館は、開館後40年以上が経過している状況も踏まえ「音楽ホール整備後、施設の更新を行わない方向での検討が望ましい」といたしました。これは戦災復興記念館のホール機能に着目した整理であり、保存・展示機能の今後や運営等について併せて検討することを前提としたものでございます。</p> <p>本基本構想P66は、このことに関する記載が不足しておりましたので、いただいたご意見を踏まえ、上記の内容を明記する形に文章を修正いたします。</p> <p>なお、戦災復興記念館が果たしてきた戦災記録の保存・展示施設としての役割につきましては、本施設への機能移転は想定していないところですが、その重要性を十分に踏まえ、関係資料の適切な保存や効果的な展示等に係る現状や課題等を整理しながら、どのように存続させるかの検討を進めてまいります。</p>
19	<p>現在の「中心部震災メモリアル」の構想のなかには、東日本大震災と同じく日本国民にとって、現在に、未来に、巨大な意味を持つはずのアジア太平洋戦争と、戦災復興という文脈は含まれていないように見受けられる。そうした中で、戦災復興記念館の更新を行わないという構想があることについて、反対する。</p> <p>戦争と、戦争被害、そして戦災復興に関して、子どもたちが主体的に学ぶ機会を大人が奪わないよう、老朽化に対するきちんとした対策を行い、施設を継続させる姿勢を持っていただけることを望む。</p> <p>日本の学生の戦争に関する知識の乏しさは海外の学生からみて少し異様なほどであり、改善される必要があると痛感している。</p>	<p>戦災復興記念館は仙台空襲や戦災復興事業に係る記録の保存・展示機能を有し、戦災復興展を開催するなど、本市の戦災復興の資料及び記録を総合的に展示し、市民の努力とその成果を記念する役割を担っております。また、270席の記念ホールがあり、音楽など様々な市民発表会の場としても広く利用されております。</p> <p>令和2年度に行った市内ホール施設の体系整理において、戦災復興記念館は、開館後40年以上が経過している状況も踏まえ「音楽ホール整備後、施設の更新を行わない方向での検討が望ましい」といたしました。これは戦災復興記念館のホール機能に着目した整理であり、保存・展示機能の今後や運営等について併せて検討することを前提としたものでございます。</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
		<p>本基本構想P66は、このことに関する記載が不足しておりましたので、いただいたご意見を踏まえ、上記の内容を明記する形に文章を修正いたします。</p> <p>なお、戦災復興記念館が果たしてきた戦災記録の保存・展示施設としての役割につきましては、本施設への機能移転は想定していないところですが、その重要性を十分に踏まえ、関係資料の適切な保存や効果的な展示等に係る現状や課題等を整理しながら、どのように存続させるかの検討を進めてまいります。</p>
20	<p>未来の子供達に夢を与えるようでもあり、後世に残る落ち着いたある建造物が欲しい。建築家の斬新過ぎるデザインではなく、ヨーロッパの広場を感じさせる「自然と融和した場所」人々がゆったりと集える場所を希望する。</p>	<p>豊かな自然・歴史資源を有する青葉山エリアに立地する施設として、周辺環境を生かした施設となるよう建築上の配慮を行っていくことを基本構想に記載しております(P52)。いただいたご意見を参考としながら、多くの皆様に親しまれる空間となるよう、基本計画や設計者選定方法の検討を進めてまいります。</p>
21	<p>「複合施設」であること、P48に「音楽ホール、中心部震災メモリアル拠点ともに、地方自治法第244条に定められた「公の施設」として整備する想定」であることから、単に、二つの施設を一つの建物に入れたものにすぎない。このような整備手法はまったく同意できない。P49の運営管理体制の記載は、パターン2にはデメリットが多いのでパターン1にしたい、という結論ありきである。</p> <p>パターン1のデメリットである、施設全体としての連携・協働事業の展開に工夫を要する、となるのは、音楽ホールとメモリアル拠点が全く別物であることを示唆している。</p> <p>仙台市として、これが世界に誇る施設、とあるが、文化芸術と災害文化を並列で記載している時点で、勘違いも甚だしい。</p> <p>仙台市民として恥ずかしい内容であり、全面的な見直しを希望する。</p>	<p>管理運営体制につきましては、想定として管理一体事業分離パターン・完全一体パターンの2つを記載しておりますが(P49)、今後、双方のパターンの可能性について十分に吟味してまいります。</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
22	<p>中心部震災メモリアル拠点について、「被災者」と全く接していない人が書いている文章。被災者＝津波で大切な人や家を亡くした人という頭でっかちな表現ばかり見受けられる。仙台のみならず、宮城県や福島、関東の人でも東日本大震災で様々な経験をしており、みんなが被災者である。そうした前提がわかっていないから、P78のように「被災者の苦しみや悲しみを後世に伝えていくため」や、「悲しみを共有する拠点」などの表現をするのだ。悲しみを繰り返さないために、人と都市のレジリエンスを高めることが大事だと、国連防災世界会議のときに高らかに宣言したのを、今の仙台市職員は全く知らないことがわかる。残念。被災された方々も悲しみと共存しながら、それでも日々を送ったり地域の復興に向けて取り組み組んだりしていることを淡々と伝えることで、震災を経験していない世代にも震災により引き起こされたことに思いを寄せてもらうことが大切であって、苦しみを後世に伝えてどうする。さらに P44「震災を将来にわたり心に刻むため、犠牲者を悼み、想いをいたす場」、「災害が起こるこの地に暮らす意味」とはどんなことを言いたいのかかわからない。「災害を乗り越えようとする人の営みを感じる場」とあるが、災害は乗り越えないとだめなのか。それは東日本大震災のときに、そこから来た人たちが被災している人に「がんばれ」と言ったのと同じ、被災者に鞭打つ行為ではないか。</p> <p>P26「災害を乗り越える術を文化として未来に向けて創造」とあるが、乗り越えるんじゃなくて、災害が起きてもしなやかに立ち直れる人や災害後によりよいものを創造する力を養うことが大事なのではないか。</p> <p>中心部震災メモリアル拠点として、人の心の復興に寄与することや被災者を支える、寄り添う気持ちが全く見えない。こんなもの、お金をかけて作っても意味がない。</p> <p>仙台ならではの、はどこにあるのか。</p> <p>当該意見にきちんとした回答があることを望む。</p> <p>国連防災世界会議の宣言や仙台市の復興、その後の防災ダボス会議など、きちんと反映</p>	<p>東日本大震災は、本市または甚大な津波被害を被った沿岸部のみならず、内陸部における宅地被害、都市機能やライフラインの途絶、さらには福島第一原子力発電所事故による放射能汚染など、東日本のみならず日本全体に多大な影響を与えた大災害でした。</p> <p>ご指摘のとおり、災害に対し「人と都市のレジリエンスを高めること」が非常に重要であることから、本市では 2015 年の国連防災世界会議において採択された仙台防災枠組を実現すべく防災機能と環境配慮に優れたまちづくりと災害をしなやかに乗り越えるひとづくりを進める「防災環境都市」づくりを推進してまいりました。中心部震災メモリアル拠点は、防災環境都市ならではの経験と知見をすべての仙台市民に根付かせるとともに、国内外に広く啓発を行い、世界の防災力向上に貢献できる拠点を目指しております(P26)。</p> <p>一方、時間経過に伴う記憶の風化を防ぎ、次の災害に備えるためにも、被災された方の想いを残し、次世代に繋げていく場や機能が必要と考えております。</p> <p>そのため、中心部震災メモリアル拠点の機能として、災害の記憶を喚起しつづけるメモリアル機能、災害に備え、災害があっても乗り越えていける文化を定着させる災害文化普及啓発機能、それらを広く内外に発信していく機能の3つを果たす拠点とすべく、検討を進めております(P27)。</p> <p>クワイエットスペース(P44)につきましては、3.11 に想いを致す場としながら、その後の復興に立ち上がった人の強さや復興の軌跡を感じられる場となるよう、いただいたご意見を踏まえ引き続き検討してまいります。</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
	<p>させて本当に必要な施設を望む。</p>	
23	<p>①設立過程の可視化</p> <p>具体的な活動のイメージを市民に広く伝えていくため、建設過程の見える化に期待する。これから最低 8 年を要することから、市民に音楽ホールの意義や役割を浸透していくための方策を考える必要がある。中間案時点においては抽象的な文言が並んでいる印象があり、音楽ホールの具体的な活動のイメージがつかめず全体像が見えにくい印象を受ける。</p> <p>例えば、災害文化と芸術をどう結び付けようとしているのか、理解が難しい。</p> <p>音楽ホールの具体的なコンテンツはこれから検討することと思うが、完成に至るまでのプロセスを市民が理解しやすいよう、「見える化」を検討していただきたい。その際、施設が出来るまで市内各地において、将来当該施設で実施されるであろうプロジェクトの小規模なプロジェクトや教育プログラムを継続して展開するなど、数多くの市民を巻き込んだ参加型プログラムを多数実施することも効果があるのではないかと。また、誰でも気軽に入館できる、常に何かが始まっている、開かれている施設であることが大切。そうすることにより、当該施設を市民の方々に理解していただく、親しみを持っていただく、市民の方々の当事者意識が醸成されることに繋がると思う。</p> <p>②追悼や防災を考える場としての役割の明確化</p> <p>追悼や防災を考える場としても、芸術と災害を結びつけたイベントなどの企画を考えていただきたい。趣旨と規模は全く異なりますが、英国では第1次世界大戦において前途ある多くの若者たちが犠牲になっていたことを追悼し、100年後に当たる2014年から2018年にかけて英国各地で多彩なアートイベントが開催され、英国市民の心情や記憶に訴えかけるプロジェクトとなり、現在までも語り継がれている。戦争と災害は異なる厄害ではあるが、</p>	<p>①につきましては、複合施設の意義や役割を市民の皆様へ伝え、多くの人に施設への賛同や愛着を感じていただけるよう、開館に向けた先行的な取組みは重要であると考えております。整備検討のプロセスを今後とも様々な形で発信するとともに、参加型プログラムの実施などについて、いただいたご意見を参考としながら検討してまいります。</p> <p>②につきましては、文化芸術と災害文化の特性やノウハウを融合させた、本施設ならではの連携・協働事業を行っていくことを想定しております(P13)。今後、市民・関係者の皆様のご意見を伺いながら、具体的な取組み内容の検討を進めてまいります。</p> <p>③につきましては、音楽ホールの事業の考え方として、「特に、若い世代に様々なチャンスや出会い、体験の機会を生み出す」ことを掲げております(P22)。また、周辺との関係についての考え方として、本施設周辺に多数の学校があることに着目し、若い世代が気軽に訪れる施設となるよう取り組むことを掲げております(P52)。今後、いただいたご意見を参考にしながら、若い世代に対する裾野拡大や人材育成の具体的な方策について検討を進めてまいります。</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
	<p>亡くなった方々を追悼し、記憶を継承する意義においては共通する点があるかと思う。</p> <p>③若者層へのサービスの充実。</p> <p>若いファン層の獲得も重要。地理的に、仙台市内や広瀬川という仙台を代表する景観を見ることができる場所である。仙台は楽都、劇都であると同時に学都でもある。建設が計画されている場所はその結節点ともなる位置である。特に仙台市民としても、東北あるいは全国から集まった学生たちが数多く居住しており、こうした若者たちに対するサービス制度（学割や空席を学生や高齢者層を対象に廉価で販売するなど）を充実させ、若者層を取り込んでいくことが必要。そのため、大学生向けのプログラムやワークショップ、インターン制度を充実させていくことも重要。実際にその施設を利用するのは現在の青少年の方々であり、当該施設が未来の仙台市民の創造性を育む場となることが期待されていると思う。</p>	
24	<p>私は地元の町で戦災記録を続けており、一度戦災復興記念館の展示を鑑賞した。修学旅行生の受入れや、市内の学校と連携し工夫をこらした活動が行われていると感じた。戦災資料は命の記録。次の世代にバトンを渡し、どんな町づくりをするかを考えてもらうかぎになるものの一つである。</p> <p>新構想の中で、戦災復興記念館の戦災展示が存続すること、市民の協力で将来の市民のために残そうとしてこられた資料が、適切に保存され、活用が場が継続していくことを願う。</p> <p>また、戦災は遠い昔に解決したことでなく、戦災資料には震災復興とは別の意味合いもある。あの戦争の時期に、地元で起きた事柄を見つめ直し、真の平和を希求する姿勢こそ、これからの日本が近隣の国々と良き隣人として認め合っていくうえで大切だからである。</p> <p>東北の中心といえる杜の都が、町の歴史の重要なひとこまとして、戦災とそこからの復興を記録し続け、資料が安全な方法で保管活用されることは、日本が真剣に平和を希求して</p>	<p>戦災復興記念館は仙台空襲や戦災復興事業に係る記録の保存・展示機能を有し、戦災復興展を開催するなど、本市の戦災復興の資料及び記録を総合的に展示し、市民の努力とその成果を記念する役割を担っております。また、270席の記念ホールがあり、音楽など様々な市民発表会の場としても広く利用されております。</p> <p>令和2年度に行った市内ホール施設の体系整理において、戦災復興記念館は、開館後40年以上が経過している状況も踏まえ「音楽ホール整備後、施設の更新を行わない方向での検討が望ましい」といたしました。これは戦災復興記念館のホール機能に着目した整理であり、保存・展示機能の今後や運営等について併せて検討することを前提としたものでございます。</p> <p>本基本構想P66は、このことに関する記載が不足しておりましたので、いただいたご意見を踏まえ、上記の内容を明記する形に文章を修正いたします。</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
	<p>いる証と言えるのではないか。戦災復興記念館のこれまでの活動が新しい施設の中でも保証されていくことを願ってやまない。</p>	<p>なお、戦災復興記念館が果たしてきた戦災記録の保存・展示施設としての役割につきましては、本施設への機能移転は想定していないところですが、その重要性を十分に踏まえ、関係資料の適切な保存や効果的な展示等に係る現状や課題等を整理しながら、どのように存続させるかの検討を進めてまいります。</p>
25	<p>新しい施設では戦災に関する記録・記憶の継承を行なわないと聞いた。 ウクライナ戦争や「新しい戦後」などと言われる昨今の状況を鑑みるに、戦争やその被害を身近に感じ、学び、継承することは、未来を生きる子ども達にとっても大切なことである。 新たな施設にも、戦災に関する記録・記憶の継承する機能を持たせることを強く要望する。</p>	<p>仙台空襲や戦災復興事業に係る資料及び記録の保存・展示や戦災復興展の開催、市民の努力とその成果の記念については、戦災復興記念館がその役割を担っております。</p> <p>また、270席の記念ホールがあり、音楽など様々な市民発表会の場としても広く利用されております。</p> <p>令和2年度に行った市内ホール施設の体系整理において、戦災復興記念館は、開館後40年以上が経過している状況も踏まえ「音楽ホール整備後、施設の更新を行わない方向での検討が望ましい」といたしました。これは戦災復興記念館のホール機能に着目した整理であり、保存・展示機能の今後や運営等について併せて検討することを前提としたものでございます。</p> <p>本基本構想P66は、このことに関する記載が不足しておりましたので、いただいたご意見を踏まえ、上記の内容を明記する形に文章を修正いたします。</p> <p>なお、戦災復興記念館が果たしてきた戦災記録の保存・展示施設としての役割につきましては、その重要性を十分に踏まえ、関係資料の適切な保存や効果的な展示等に係る現状や課題等を整理しながら、どのように存続させるかの検討を進めてまいります。</p> <p>本施設に戦災復興記念館の保存・展示機能を移転することは想定していないところですが、災禍からの復興や経験と教訓の伝承という視点が災害伝承に共通すること、理念として「様々な『過去』にまなざしを向け、今を生きる人の糧とし、それをより良い『未来』づくりに生かす」(P8)ことを目指していることから、他施設との連携・協働事業などを通じ、本市の歴</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
		史を次世代に伝えていけるよう検討を進めてまいります。
26	<p>全体的なコンセプト、多方面にわたり配慮されていることを高く評価できる。</p> <p>① 基本理念 仙台市の長所、特長を生かす視点に加え、弱い部分、遅れている部分、取組がない部分にどう取り組むかが重要だが、やや網羅的、抽象的に感じるので、現在策定中の基本計画の中で、現状分析と客観的評価を丁寧に行って、より具体的にブラッシュアップしていただきたい。</p> <p>② 意見聴取により、多方面から多くの貴重な意見が寄せられたので、記録を残し、それらを今後の検討、運営に活用していただきたい。</p> <p>③ 意見聴取の中で、パイプオルガン設置の要望が複数出ている。東北にない世界に誇れるホール、宗教音楽の土壌がある仙台、メモリアルホールとの複合施設であることから必要性は高いと考えるが、整備するのか。どのような議論や検討があったか教えてほしい。</p> <p>④ 可能なら、シェルターなようなホールのように、木造又は木材を可能な限り使用したホールにしていただきたい。</p> <p>⑤ P39・40 楽屋の「防音性」 どのような意味か。声楽関係ではある程度の響きが必要。防音性は室外に対する配慮であって、室内はデッドにならないよう配慮していただきたい。</p> <p>⑥ 映像や写真の撮影環境もホール評価に重要なので、撮影箇所の配置などカメラマンなどが撮影しやすい環境について配慮していただきたい。</p>	<p>①につきましては、基本構想は施設整備の基本的な方向性を示すものであり、ご意見を踏まえながら、今後基本計画や管理運営の方針を策定する中でより具体的な検討を進めてまいります。</p> <p>②につきましては、これまでに市民の皆様や各団体からいただいたご意見は基本構想 P90～P100 に概要を記載しており、基本構想の検討の際の参考とさせていただきます。今後の検討の過程においてもこれらのご意見を参照するとともに、引き続き皆様から幅広くご意見を伺ってまいります。</p> <p>③につきましては、音楽ホールは、現在の本市の文化芸術活動やホール施設の状況を踏まえ、「仙台の文化芸術の総合拠点」と位置づけ（P17）、大ホールはクラシック音楽やオペラ・バレエなど多様な実演芸術の上演が可能な、可変式の音響反射設備を持つホールとすることから（P39）、パイプオルガンの設置は困難であると考えております。</p> <p>④につきましては、施設の形状・材質等は、基本計画策定や設計の段階においてより具体的に検討してまいります。</p> <p>⑤につきましては、音出し調音や発声練習等を可能とするための仕様であり、室内の響きを抑制する目的ではありません（P39,P40）。ご意見を踏まえ、「遮音性」という表現に改めることとします。</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
	<p>⑦ 入口から座席、トイレ、階段、エレベーターなど利用者の導線をなるべく短くするなど十分配慮した配置、わかりやすい館内サイン、表示をお願いしたい。</p> <p>⑧ 施設・設備細部については、完成後に改装、修正、変更等は困難となるので、今後も利用者の意見聴取、設計途中のチェックを丁寧にしてほしい。</p> <p>⑨ 仙台市にとって待望のホール。これまでシンポジウム、説明会等が多く開催されたが、関係者の関心はあまり高くないように感じる。県民会館移転構想があることや複合施設となったことで、音楽に関わっている方からも「仙台市音楽ホール」ってどうなっているの?とよく聞かれる。メディアテークやパトナホールのように、市民が参画し関心が高まり、多くの市民が参加、応援する施設となるような取組、支援をお願いしたい。</p>	<p>⑥につきましては、在仙放送局等へのヒアリングも実施したところであり(P97)、今後の検討においても配慮するよう努めてまいります。</p> <p>⑦につきましては、基本計画策定や設計の段階において、いただいたご意見を参考としながら検討を進めてまいります。</p> <p>⑧につきましては、ご意見を踏まえ、適切な確認とご意見の聴取を行ってまいります。</p> <p>⑨につきましては、複合施設の意義や役割を市民の皆様にご伝え、多くの人に施設への賛同や愛着を感じていただけるよう、市民の皆様が参画できるような取組みを、開館に向け先行的に実施してまいりたいと考えております。</p>
27	<p>中心部震災メモリアル拠点について</p> <p>「災害文化」という言葉を初めて聞いた。何だろうと思いついて読んでみて、正直「災害文化って何?」、「創造って何?」理解できている自信はない。</p> <p>だが「また災害は来るんだ」「だからみんなで乗り越えるんだ」「それを未来につなげていくんだ」という思いを感じた気がする。昔話がいっぱいの災害施設は色んな所にあるが、これからできるメモリアル施設は未来話をしてくれる施設になってくれるのだろうかと思う(さらに音楽とのコラボなんて発想がすごい)。</p> <p>自分の子供とか孫とかが笑顔で安心して暮らし続けていける、自分たち大人のためだけでなく、未来を生きていく次の子たちにそんな思いをつないでいく、そんな施設にしてくれるよう楽しみにしている。</p>	<p>いただいたご意見を踏まえ、過去の経験や教訓を、今を生きる人、さらには未来を生きる人の知恵や力としていただける拠点となるよう、引き続き検討を進めてまいります。</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
28	<p>私は荒浜小学校の卒業生で、震災当時は小学生であった。</p> <p>基本構想を読み、中心部拠点の整備については『反対』。荒浜小学校と荒井駅の施設があるにも関わらず、中心部に新たな拠点を設ける必要があるのか。</p> <p>メモリアル検討委員会が行われた際は、中心部拠点の必要性があったかもしれないが、当時と今では状況も変化しているなかで本当に必要なのか疑問である。</p> <p>荒浜小学校や荒井駅の施設は十分な役割を果たしたのか。そこで成し得ないことがあるから中心部を作るのであればまだ理解もできるが。</p> <p>荒浜小で毎年3月11日に音楽室で音楽演奏が行われているのはご存知だろう。先行事例として、既に身を粉にして取り組んでいる地元の方々がいるのに触れられていないのは何故か。仙台市や検討委員が描くメモリアルと音楽の親和性は何を示しているのか。</p> <p>中間案の資料には何度も「人」が大事であると書かれているが、中心部拠点だけ「人」が大切なのか。</p> <p>少し話は逸れるが、以前、私は荒浜小学校で働きたいと職員を訪ねたことがある。</p> <p>職員は親身になって話を聞いてくれたが、「思い」だけでは食べていくこと(生活していくこと)は難しいと話してくれた。本来ならば掴まればいけない手を掴むことが出来なくて申し訳ないと、苦渋の表情で話してくれたことを鮮明に覚えている。</p> <p>別にエモーショナルなことを書きたい訳ではなく、今現在、荒浜小で働く若い人の暮らしを支えることなく、人が大切だと書かれていることをとても残念に思う。おそらくその人がいなければ私たちの荒浜小は無かったし、同級生と行くこともできなかったと思う。</p> <p>建物が残るだけでは思いは紡いでいけない。それこそ「人」がいてこそである。それが町の未来である。どうか大切にしてほしい。</p> <p>この拠点ができる頃には私たちも30代になる。これまでのメモリアル検討委員に沿岸部の</p>	<p>仙台市の震災復興メモリアル事業は、津波により被災した沿岸部に震災の記憶と経験を知り学ぶなどの機能を持つ拠点、人や情報が集まる中心部には震災の経験を収集・編集・発信する拠点を整備し、それぞれの場所の特性を生かしながら震災の記憶と経験を未来へ、世界へつないでいくこととしております(P76)。中心部拠点の整備にあたり、震災からの時間経過やこの間の社会情勢の変化も踏まえ、東日本大震災のみならず今後も再び発生する大災害に備え、乗り越える術を備えた社会や人を育て続けていく中心部拠点を整備することを決定したところです。</p> <p>ご指摘のとおり、荒浜小学校において3月11日に開催される音楽イベントには地元ゆかりのある方の他、多くの方が訪れ特別な時間を共有されています。音楽の力やそれを実現する人の力は非常に重要であると捉えていることから、複合施設整備が実施する連携・協働事業の検討においても「災害の記録や記憶が伝わり、災害文化の定着に繋がるような企画を、文化芸術の手法も取り入れながら実施する(P13)」と例示しております。</p> <p>いただいたご意見を踏まえ、沿岸部と中心部連携による伝承の取組はもちろん、活動を担う人材育成や持続可能な運営体制につきまして具体的な検討を進め、将来にわたり災害に備え、乗り越えていく人・まちを育てていく拠点となるよう努めてまいります。</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
	<p>方や私たちの年代は恐らくないと思われる。私たちや下の世代が関心を寄せることが難しいなかで「誰に」「何を」伝えていけるのか。</p> <p>今の荒浜地区の現状がそれを物語っているように思う。聞こえの良い言葉で括って中身がないようなことはもう止めてほしい。</p> <p>風が吹けば飛ばされてしまうような小さな声かもしれないが、少しでも声が届くことを願っている。</p>	
29	<p>音楽ホールは「最先端の技術、最高度の知見を結集し、これからの時代を牽引し、国内外から高い評価を獲得できる」「生の音源の響きに対する優れた音響性能」のホールを建てられるらしく、本当にいつでも我々庶民が行ける場所になるのか。</p> <p>チケットはいかほどの価格帯を想定されているのか。「優れた芸術」の名の下、1万円も2万円も取られ、何時間もじっとしているような公演は一庶民には恐れ多くて聴きにいけない。気軽にリーズナブルな価格帯・雰囲気での公演をできるだけ多く開催していただきたい。</p> <p>ただし、その赤字の補填のため更なる血税を使うのも控えていただきたい。</p>	<p>音楽ホールの大ホールは、優れた音響性能を有し本格的な実演芸術公演に適したものとしてまいりたいと考えておりますが、限られた層だけに向けたものではなく、全ての人に開かれ、プロ・市民がともに主役となる施設を目指しております(P17,P34,P39)。</p> <p>また、音楽ホールの事業として、幅広い方々が気軽に楽しめる作品の上演(P21)、文化芸術に興味を持ってもらうための入門的な企画の実施(P22)なども想定しており、あらゆる方々に文化芸術の体験機会を提供する施設を目指しております。</p> <p>運営費用につきましては、稼働率の向上、外部資金獲得など収入増の取組み、業務改善など支出減の取組みを行い、可能な限り自治体の負担を減らすとともに、自治体が投じた費用を上回る社会的価値・経済的価値を創出するための取組みを絶えず行っていくことが重要と考えております(P50)。</p>
30	<p>【P47 中段】</p> <p>「性能発注方式」を取ることが PFI 方式の大きな特徴」とあり、間違いでは無いが、前頁に記載され、比較対象となっている従来型における DB 方式や ECI 方式などにおいても、要求水準書を提示して「性能発注方式」として発注することは可能であり、実際に事例は多々ある。</p>	<p>DB(デザインビルド)方式等においても性能発注方式を取り得るものと認識しております。</p> <p>基本構想の該当箇所(P47)には、注釈を入れることとします。</p> <p>整備手法は、基本計画段階での整備手法の決定に向けた検討を進めてまいりますが、際にはDB、ECI方式等のメリット・デメリットも整理の上、本市として判断してまいります。</p> <p>また、音楽ホールの舞台性能、舞台機構、動線計画といったハード的要素は、施設の理念や</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
	<p>現在の表現では、あたかも PFI 方式ではないと「性能発注」ができないような誤解を招く恐れがあるため、その表現については、訂正すべきではないか。</p> <p>今後、基本計画の策定に進むと思われるが、今回のような施設計画で、かつ、音楽ホールのような特別な用途においては、ソフト面での条件整理が中心となると想定され、ホール計画に強い専門のコンサルタントが参画されるケースが多いと考えられる。</p> <p>一方で、そのようなソフト面に強い専門家が中心となって計画を進めるとハード面の検討が不十分になる傾向があることが懸念され、今回のような整備手法の検討において、偏りのある不十分な検討となってしまう恐れもある。懇話会のメンバーを見ても建築(計画系)の先生はいるが、発注に強い方が不在であるため、実務側でサポートできる人材が必要であるように思う。</p> <p>実際、病院計画のケースではソフト側で検討をする病院コンサルの業務と並行して、ハード側および事業全体をサポートする建築コンサルの業務が発注されるケースが多い。今回のケースにおいても、それぞれを別発注するのか、抱き合わせてJV等での参画を見込んでの一括発注にするのかはあるが、ハード系をしっかりサポートできる事業者を入れた方が良いかと思う。</p> <p>特に最近では未曾有の物価上昇により、基本計画における概算が甘いと、以後のフェーズにおいてコストコントロールが難しくなるだけでなく、品質の確保やスケジュール管理にも影響が出るため、充分注意が必要である。また、これらの役割は、早い段階での導入がプロジェクトの成功に繋がるため、今回のタイミングでの検討を勧める。</p>	<p>事業方針などによって求められるものが変わってくるため、ハード面の検討支援を行うにあたってソフト面への深い理解や特殊なノウハウの蓄積が重要になると考えております。今後の専門家の起用のあり方については、そうした点を踏まえて総合的に判断してまいります。</p>
31	<p>令和十三年は随分先の話というのが率直な感想。</p> <p>芸術等は無縁な者のため、音楽ホールがどうなるかはお任せする。</p> <p>災害拠点は風化が進む中での早期完成を望みつつも、時間への提言を二点。</p>	<p>開館を見込んでいる令和13(2031)年には、震災発生から20年を迎えることとなります。</p> <p>歴史上、人の一生を超えるスパンで大災害は繰り返されていることから、災害への備えと啓発を継続することは重要と捉えております。本施設整備を、市民の皆様が改めて災害につい</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
	<p>・「震災三十年」、残念ながら風化は進む。しかしピンチはチャンス。再び震災について市民が考える契機となる施設を。それまでの地道な活動の継続を望む。</p> <p>・八年経てば時代は三分の二回り、社会や技術の変化、大きな災害が何時何処で、いずれも想定外。市役所の皆さんも色々とお考えだろうが、一寸先は闇。施設の内容や活動や展示は堅牢に作り込むのではなく、八年後・十年後の方が困らないよう、変化に柔軟に対応できる考えを。</p>	<p>て考えるきっかけとするとともに、整備までの間におきましても、多様な主体との連携のもと、伝承や防災活動を継続しつつ、先行事業の検討と実施を進めてまいります(P56)。</p> <p>また、今後の社会変化や技術革新も見据え、その時代にフレキシブルに対応できる余地を考慮に入れ、多様な主体が活動しやすい拠点となるよう、いただいたご意見を踏まえ、基本計画及び設計に係る具体的な検討を進めてまいります。</p>
32	<p>わたしは戦災復興記念館がなくなってしまう可能性があることに強い危機感を持っている。整備事業を文化的コモンズと位置付けるのなら、多くの被災者が出た歴史的記憶の場もまたその対象になりうる。そのとき、震災だけでなくそれ以前の災禍についても今後とも継承されていくべきであり、縮小・廃止でなく、せめて移転で対応すべき。</p> <p>10年近く仙台で暮らしていたが、地域でも戦争体験を持つ方が減っていき、伝える術が減っていくなか、戦争とその後の復興を伝える資料館はより重要性を増している。</p> <p>そもそも、仙台という都市を知ろうとするとき、空襲からの復興を経ているという視点はとても重要である。また、仙台は空襲と震災というふたつの災禍から立ち上がった、世界でも稀な都市だと考えられる。</p> <p>ひとつのアイデアだが、震災を伝えるメモリアル施設に併設して戦争体験について学ぶ施設が出来れば、人災と自然災害を同時に考える場となる。ふたつは異なるものであるが、まちが壊れ、人命が失われること、また人々が力を合わせてその後の復興を遂げていくという意味では大きく共通点がある。</p> <p>ふたつの事象を同時に学び、考えることのできる場では、世界的にも重要なあたらしい視点や、市民同士の出会いが生まれることが期待できる。</p> <p>現在はウクライナ戦争や気候変動による災害の増加など、国際社会が不安定化している。</p>	<p>仙台空襲や戦災復興事業に係る資料及び記録の保存・展示や戦災復興展の開催、市民の努力とその成果の記念については、戦災復興記念館がその役割を担っております。</p> <p>また、270席の記念ホールがあり、音楽など様々な市民発表会の場としても広く利用されております。</p> <p>令和2年度に行った市内ホール施設の体系整理において、戦災復興記念館は、開館後40年以上が経過している状況も踏まえ「音楽ホール整備後、施設の更新を行わない方向での検討が望ましい」といたしました。これは戦災復興記念館のホール機能に着目した整理であり、保存・展示機能の今後や運営等について併せて検討することを前提としたものでございます。</p> <p>本基本構想P66は、このことに関する記載が不足しておりましたので、いただいたご意見を踏まえ、上記の内容を明記する形に文章を修正いたします。</p> <p>なお、戦災復興記念館が果たしてきた戦災記録の保存・展示施設としての役割につきましては、その重要性を十分に踏まえ、関係資料の適切な保存や効果的な展示等に係る現状や課題等を整理しながら、どのように存続させるかの検討を進めてまいります。</p> <p>本施設に戦災復興記念館の保存・展示機能を移転することは想定していないところですが、災禍からの復興や経験と教訓の伝承という視点が災害伝承に共通すること、理念として</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
	<p>仙台という都市にも、さまざまな災禍に遭い、このまちに逃れてきたひと、このまちで暮らすことを選んだ人びとがいる。さまざまな立場にある市民たちが自主的に過去の災禍を学び、対話し、これからについて対話するための場所が必要である。</p>	<p>「様々な『過去』にまなざしを向け、今を生きる人の糧とし、それをより良い『未来』づくりに生かす」(P8)ことを目指していることから、他施設との連携・協働事業などを通じ、本市の歴史を次世代に伝えていけるよう検討を進めてまいります。</p>
33	<p>戦災復興記念館の廃止に反対する。空襲による甚大な被害から 30 年以上かけて戦後復興を完了した歴史を伝える必要性は、ウクライナ問題など国際社会が不安定化する今、戦後最も高まっていると感じる。都市の復興だけでなく、被害を受けた人の回復も含め、戦後の歴史を伝える場は世界的にも重要性が増しており、廃止や縮小ではなく、せめて移転する等の対応が望まれる。</p> <p>東日本大震災から 10 年を契機に震災関連の資料館や記念館が次々とオープンしているが、土地が経験してきた災厄の歴史は当然東日本大震災だけではない。土地に幾重にも重なる歴史を語る場所はいくつあってもよく、仙台において戦争の記憶を語る戦災復興記念館の重要性が時代によって失われていくことはない。</p> <p>実際、東北の小中学生たちが学びの場として修学旅行の際に訪問しており、地域でも空襲の事実や状況を伝えるものが少なくなる中で、貴重な学びの場となっている。空襲や戦争を体験した人が少なくなる今、戦災復興記念館を廃止すべきではないとわたしは考え、本基本構想に反対する。</p>	<p>仙台空襲や戦災復興事業に係る資料及び記録の保存・展示や戦災復興展の開催、市民の努力とその成果の記念については、戦災復興記念館がその役割を担っております。</p> <p>また、270席の記念ホールがあり、音楽など様々な市民発表会の場としても広く利用されております。</p> <p>令和2年度に行った市内ホール施設の体系整理において、戦災復興記念館は、開館後40年以上が経過している状況も踏まえ「音楽ホール整備後、施設の更新を行わない方向での検討が望ましい」といたしましたが、これは戦災復興記念館のホール機能に着目した整理であり、保存・展示機能の今後や運営等について併せて検討することを前提としたものでございます。</p> <p>本基本構想P66は、このことに関する記載が不足しておりましたので、いただいたご意見を踏まえ、上記の内容を明記する形に文章を修正いたします。</p> <p>なお、戦災復興記念館が果たしてきた戦災記録の保存・展示施設としての役割につきましては、その重要性を十分に踏まえ、関係資料の適切な保存や効果的な展示等に係る現状や課題等を整理しながら、どのように存続させるかの検討を進めてまいります。</p> <p>本施設に戦災復興記念館の保存・展示機能を移転することは想定していないところですが、災禍からの復興や経験と教訓の伝承という視点が災害伝承に共通すること、理念として「様々な『過去』にまなざしを向け、今を生きる人の糧とし、それをより良い『未来』づくりに生かす」(P8)ことを目指していることから、他施設との連携・協働事業などを通じ、本市の歴史を次世代に伝えていけるよう検討を進めてまいります。</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
34	<p>①施設完成後の管理を指定管理者に委託するにあたり、施設内の備品(事務机・ロッカー・事務機器類・機材類(舞台照明器具類・音響機器類等))は、指定管理者にて準備するような契約内容とすべきではないか。</p> <p>備品類は耐用年数も短いため指定管理者が使いやすく、低価格で世界中から調達できる可能性が高い。これにより、契約更新ごとに新品が調達できる利点があり、機材の修理不能から回避できると考えられる。このため市は、備品等の仕様・目的を契約条件とすることが必要となる。</p> <p>②仙台市の公共施設の使用期間は 80 年と聞いているが、80年経過後の次期建替え建設用地は近くの旧追廻住宅跡地になるのか。</p> <p>施設使用期間後の対応も事前に想定しておくのが望ましいと考えられる。</p> <p>③施設開館期間は夏休み・冬休み期間を設け、まとめて休館日にしてはどうか。それ以外は連日開館として休館期間に集中的に保守点検・改修ができるように。また、開館時間は午前9時から夜12時までにしてほしい。</p> <p>施設の保守・点検は重要であるため、日数を要するものや日中作業ができるので、効率的かつ経費節減につながると考えられる。また、練習室等の施設利用者が仕事帰りの社会人を考慮すると、妥当性がある。</p> <p>④ホール内に建築的残響可変装置を設置すべきではないか。</p> <p>古典的楽曲と現代楽曲では曲のテンポや楽器構成が一律ではないため、求められる響きに対応した状況が必要と考えられる。</p>	<p>①につきましては、管理運営主体(指定管理者制度の導入等)や施設の備品については今後検討を進めていくこととしており、その際の参考とさせていただきます。</p> <p>②につきましては、現時点で検討してはおりませんが、適切なタイミングで先を見据えた検討を行うことは重要と考えております。</p> <p>③につきましては、施設の開館時間や休館日は今後の検討となりますが、多くの市民の皆様にご利用いただきやすくなるよう工夫が必要であると考えております。</p> <p>④につきましては、音楽ホール大ホール・小ホールは多様な分野・演目に対応したホールを想定しておりますので(P39)、基本計画策定や設計の過程で適切に検討してまいります。</p> <p>⑤につきましては、音楽ホール大ホールの舞台は、十分な広さ・奥行を持った主舞台に加えて、その上手、下手に演技空間と同等の広さの側舞台を設け、オペラ・バレエなど多様な舞台芸術公演の上演を可能とする構成とします(P39)。どの劇場・ホールも固有の特性を有しておりますので、施設ごとの特性に応じた演出や舞台美術を考えることは必要ですが、海外を含む他都市で制作された本格的な作品も上演可能な舞台を目指すとともに、舞台技術者の育成にも力を注いでまいります。また、映像・通信技術への対応も重要と考えております(P35)。</p> <p>⑥につきましては、ホールの形状・材質等は、基本計画策定や設計の段階においてより具体的に検討してまいります。</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
	<p>⑤ワーグナーの作品オペラ「ニーベルングの指環」全作品の本格的な上演は可能か。 生演奏による公演が日本では少ないようである。上演にあたっては、広大なバックステージ・保管倉庫が必要である。場合によっては、背後映像投影設備が必要かも。</p> <p>⑥ホール内装は県産の不燃性木材を多用した木造構造を想定しているのか。 世界的にみてクラシック系ホールは、木造構造の評価が音響的には高い。</p> <p>⑦ホール・練習室での本格的な録音ができる部屋が必要ではないか。 録音にあたっては機材の他、適切な音響を持った広さのモニター室が必要である。</p> <p>⑧80年使用期間中の総改修費用は、建設費の2倍から3倍程度と見込んでいるのか。また、その費用は市税からの拠出か。 施設建築設備等は建物本体と比べ寿命が短いため更新回数が多くなり、多額の費用負担が発生する。</p> <p>⑨今回のホールは何を持って他のホールとの差別化するのか。 近くには東北大学萩ホールがあり、差別化しないと利用率低下につながる。</p> <p>⑩最終的にこのホールから何を生み出そうとしているのか明確にできないのか。 最終目標を明示することにより、多額の費用を要しても市民に納得感や理解が得られるのではないか。</p>	<p>⑦につきましては、ホール等における録音についても対応を検討してまいります。</p> <p>⑧につきましては、施設の改修は設置者である本市が実施することとなりますが、長寿命化保全計画を策定し、建物の健全度が保持されるよう予防的視点に基づく対策を実施してまいります(P55)。</p> <p>⑨につきましては、音楽ホールの大ホールは「クラシックのコンサートやオペラ・バレエの上演などをはじめとする生の音源の響きに対する音響を重視した 2,000 席規模のホール」を特徴としており(P39)、座席数や重視する分野によって、他のホール施設との差別化が図られるものと考えております。また、「仙台の文化芸術の総合拠点」として多様な創造発信事業を展開するという点においても、他施設とは位置づけを異にするものと考えております。 なお、萩ホールは音響性能を重視しつつ学術会議機能を備えた大学施設であり、本施設とは異なる役割・機能を有していると考えております。</p> <p>⑩につきましては、複合施設の基本理念、目指す施設像、音楽ホールとしての方針等は P8 から P25 に記載のとおりです。こうした考え方に基づき本施設が生み出す多様な価値を総合的に捉え、可視化していくことで、施設に賛同や愛着を感じる方を増やしていくことが重要と考えております(P50)。</p> <p>⑪につきましては、周辺施設との有機的な連携は不可欠であると認識しております(P52)。具体的な取組みにつきましては今後検討を進めてまいります。</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
	<p>①付近の施設(仙台市博物館・国際センター・宮城県美術館・東北大学植物園等)との周遊入場券の発行の企画はあるのか。来場者が一日楽しめる場所として。施設稼働率を考慮するといかに来場者及びリピーターを増やすことが決め手となると考えられる。</p> <p>②付属施設としてミュージアム的な施設は併設されるのか。将来の増設計画でも良いと思われるが、検討の価値はあると考えられる。</p> <p>③ニューイヤーコンサート 開館時間・時期からすると元旦に演奏会は可能と考えられる。</p> <p>④音響設計は専門の設計事務所に委託するのか。 ホール設計にあたっては、専門の設計事務所に委託するのが妥当である。</p> <p>⑤最終的に何らかの音楽の聖地になりうるのか。 目標を的確に設定すれば可能ではないか。</p> <p>⑥施設の利用予約は3年先まで可能となるのか。 長期予約をとることは重要であり、運営経費の見通しも立てやすい。</p> <p>⑦オペラでの、歌手と生オーケストラとの音響バランスを考慮すると奈落を利用した半地下形式も一つの方法である。</p> <p>⑧ホール企画・設計・建設・管理・運営・利用まで、一貫して統括する責任あるプロデューサ</p>	<p>②につきましては、「災害文化創造支援・発信エリア」に展示スペースを備えるほか、広場エリアについて展示を含む様々な催事が行われる空間とすることを想定しております(P43,P44)。</p> <p>③につきましては、事業および休館日を含む管理運営の方針を今後具体的に検討していく中で、ご意見を参考とさせていただきます。</p> <p>④につきましては、優れた音響性能の実現のためには音響設計が重要であると認識しており、音響設計者の選定や業務推進体制、ホールの音響模型実験の必要性などを含め、効果的なあり方を検討してまいります(P45)。</p> <p>⑤につきましては、本施設は杜の都の新たなシンボルとなることを目指しております。多くの方から愛され、評価される施設となるよう、基本構想に掲げた基本理念等を実践してまいりたいと考えております。</p> <p>⑥につきましては、管理運営の方針を策定する中で、早期に予約を受け付ける優先的取扱いについての基本的考え方、対象範囲などについて検討してまいります。</p> <p>⑦につきましては、基本計画策定や設計の段階において、ご指摘いただいた歌手とオーケストラとの音のバランスといった観点も十分に踏まえながら、望ましいホールの機能・機構について具体的な検討を進めてまいります。</p> <p>⑧につきましては、構想・計画、設計・施工、運営など一連の過程において一貫した考え方を</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
	<p>一的役割の人選及び任命選定基準は策定するのか。</p> <p>従来は個別に責任者がいたようであるが、総合的にトータルシステムとして統括責任者を配置することは重要である。これにより顔の見えるホールが実現できる可能性が高い。</p> <p>⑨女性の音楽関係者(演奏者等)を委員に追加選任してはどうか。</p> <p>利用者の視点からすると女性もいるため選任は妥当と思われる。</p>	<p>持つことは大変重要であり、長期的に関わっていただく専門家のあり方について検討してまいります。</p> <p>⑨につきましては、現在設置している「国際センター駅北地区複合施設基本構想に関する懇話会」は基本構想の策定を目的としたものであり、今後の有識者・関係者からの意見聴取のあり方については別途検討することとなります。いただいたご意見は、今後の検討の際の参考とさせていただきます。</p>
35	<p>①文化芸術拠点(音楽ホール)と災害文化拠点(中心部震災メモリアル拠点)の連携・協働事業の推進について</p> <p>私自身は震災メモリアル展示の施設整備業務を複数の自治体で携わってきた経験から、どちらかと言えば「中心部震災メモリアル拠点」整備について、これからどのようなコンテンツを持った施設が構築されていくのかにとっても深い関心がある。</p> <p>2つの異なる機能を持つ施設が複合施設として同居することで、双方にとってどんな新しい個性が生まれるのかに大きな期待を持っている。中間案の各所に、相互の連携・協働による相乗効果が、仙台ならではの個性／独自性のある施設になること目指す文言があり、深く共感している。</p> <p>一方で、これまで類を見ない新しい個性を、2つの異なる機能を持った施設の掛け合わせから生み出していく過程には大きな困難が多々あり、一筋縄では行かないであろうとも感じる。連携・協働に関する具体的な議論・作業はこれからの大きな仕事と見受けるが、そのための中核／土台をより強化することが、よりスムーズでより確実な今後の議論・作業につながると考える。</p> <p>(ア) 複合施設の施設概要について</p>	<p>①(ア) A、B につきましては、双方の特性やノウハウを融合させた、複合施設ならではの取組みを推進していくことがこの施設にとって大変重要であると考えております。今後、基本計画や管理運営の方針を策定する中で、幅広くご意見を伺いながら議論を深めてまいります。いただいたご意見を踏まえ、ソフト面とハード面の関係性、広場エリアの効果的な活用方法などについても検討してまいります。</p> <p>①(ア) C につきましては、「運営・協働エリア」は、複合施設の管理運営や事業実施に必要な諸室のほか、事業を協働して推進していく団体の諸室を想定しており、後者の団体の例として仙台フィルハーモニー管弦楽団を挙げております(P36、37)。音楽ホールと中心部震災メモリアル拠点の「連携・協働」との混同を防ぐため、施設概要における文言を「運営エリア」と変更いたします。</p> <p>①(イ) (ウ) につきましては、ご意見いただいた視点は重要なものと考えております。本基本構想においては、管理運営体制について、想定として管理一体事業分離パターン・完全一体パターンの2つを記載しており(P49)、今後さらに具体的な検討を進めていくこと</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
	<p>A) 「連携・協働事業」を担うエリアの明確化</p> <p>基本構想の中間案にて複合施設の施設概要(p.34~45)を示しているが、「音楽ホール」と「中心部震災メモリアル拠点」の連携・協働を行うエリアを明確化してはどうか。例えば「せんだい3.11メモリアル交流館」には企画展示室と名したエリアが常設展示と同じ空間に同居しているが、企画展示をある一定の頻度で更新していくというプログラム自体が当初の計画段階から盛り込まれている。結果、「この施設での企画展示はどうあるべきか」という課題を開館当初から現在まで継続して考え、皆で議論しながら生み出していくという状態が実現していると考え。本施設にもそのような場所とプログラムを盛り込むことができれば。(メモリアル交流館では常設展示と企画展示を同じ空間に同居させるという配置により、定期的に変化する企画展に足を運ぶ来館者に、変わりにくい常設展も一緒に体験してもらおうという意図があり、その効果が出ていると思われる。)</p> <p>B) 広場エリアの重要性</p> <p>「音楽ホール」と「中心部震災メモリアル拠点」の両機能にとって、それぞれに不可侵の領域があり、まずは最低限それぞれの機能にとっての理想を実現するためのエリアが必要であると理解した。その不可侵領域を最低限担保した上で、両機能の連携・協働を行うエリアを担保/明確化することが、今後の議論・作業の役に立つのではないかと。そういった視点で施設概要を見ると、「広場エリア」がその役割に最も適しているのではないと思う。</p> <p>特に壁等で仕切る必要はないが、「交流ロビーゾーン」や「屋外広場」等が両機能の連携・協働を行う場所になると明記するだけでも違うと思う。(また、屋外広場で焚き火ができるの良い。避難訓練や防災学習の中で炊き出しとかをやれると、楽しみながら学ぶことができ、災害文化の継続につながるとと思われる。)</p> <p>C) 運営・協働エリアの明確化</p> <p>施設概要の「運営・協働エリア」は「市民協働」という意味の「協働エリア」という理解でよ</p>	<p>となりますが、その検討と併せ、本施設ならではの取組みやその推進体制について、幅広くご意見を伺いながら議論を深めてまいります。</p> <p>②(ア)(イ)につきましては、既存のメモリアル施設の特性や事業を十分に踏まえた役割分担や連携事業のあり方、中心部拠点における「海」イメージの取り扱いについては、いただいたご意見も参考に今後の検討に生かしてまいります。</p> <p>②(ウ)の「災害文化」を『生み出していく』場所でもあって欲しいということにつきましては、中心部拠点の必要性の一つと考えている「これから生きる人に求められる『意識』と『ふるまい』を探究する役割」(P81)を担っていけるよう、事業方針(P27から29)を具体化する方策の検討を進めてまいります。</p> <p>③につきましては、令和5年3月に策定した「仙台・青葉山エリア文化観光交流ビジョン」(P6)の中で、青葉山エリア内及び都心との回遊性の向上に向けた取組みの方向性として「快適な歩行環境の整備」等を掲げております。</p> <p>また、本基本構想においては、ご意見で言及いただきましたとおり、回遊性向上のための「歩く過程を楽しめるような環境づくり・仕掛けづくり」や、本施設敷地に隣接する公園敷地、河川敷との関係について記載しております(P52-53)。</p> <p>今後、これらの考え方を踏まえ、周辺地域を含めた空間づくりの方向性、および、本施設的设计者の関与のあり方などについて、青葉山エリアに関する様々な主体と連携しながら検討を進めてまいりたいと考えております。</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
	<p>ろしいか。中間案の中では「音楽ホール」と「中心部震災メモリアル拠点」の連携・協働という文言が多数出ており、誤解を回避する意味で表現を再考したほうが良い。もし「音楽ホール」と「中心部震災メモリアル拠点」の協働を意味するのであれば、具体的な補足説明が必要かと思う。</p> <p>(イ) 両事業の「事業の方針」(p20,p27)「運営組織概要想定」(p25,p33)について</p> <p>A) 連携・協働事業を担う業務の明確化</p> <p>「第3章 複合施設の機能・事業等」(p.17~33)に「音楽ホール」と「中心部震災メモリアル拠点」の両機能とも、具体的な「事業の方針」と「運営組織概要(業務内容)」が示されているが、「両機能の連携・協働」を行う部署や人員配置につながるような記載が見受けられない。この部分をより明確化することが、今後の連携・協働作業の動きやすさにつながるのではないか。</p> <p>本施設が他にない『仙台ならではの創造性あふれる施設』になるための骨格と言っても過言でないため、「事業の方針」や「運営組織概要(業務内容)」の中に、そのための文言をしっかりと明記されることを望む。</p> <p>(ウ) 連携・協働事業の具体例(p13)</p> <p>A) 両事業の、より積極的な連携・協働の具体案の検討の必要性</p> <p>本施設が他にない『仙台ならではの創造性あふれる施設』になるための、具体的なコンテンツ例を示しているが、これらは最低限必要としても、『仙台ならではの創造性あふれる施設』で在るためには、より両機能がお互いに踏み込んで一緒に生み出すコンテンツが必要かと感じる。</p> <p>B) 上記を進めるため、両事業がお互い踏み込んだ組織体制作りと手順の明確化</p> <p>上記のように、本施設が『仙台ならではの創造性あふれる施設』になるためには、両機能の連携・協働による事業コンテンツの具体的な案を、より深く検討していく必要がある。</p>	<p>仙台市の考え方</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
	<p>もちろんその作業はこれからの大きな仕事と理解している。それをどのような組織体制で、どのような手順で進めて行くのかについて記載がないため、明確化して進めてほしい。</p> <p>②中心部震災メモリアル拠点について</p> <p>(ア)「せんだい 3.11 メモリアル交流館」「震災遺構荒浜小学校」「荒浜地区住宅基礎」と本施設の役割分担の具体化</p> <p>資料(p.76～82、p82 に特筆)に、本施設と上記3つの施設の位置づけと役割について示されているが、特に「せんだい 3.11 メモリアル交流館」と本施設の関係性が、具体的な展示コンテンツレベルで違いが出るのか／出すのが難しい課題であろうと感じる。明確なアイデアがある訳ではないが、本施設が「内陸部での被災状況を含む震災の記憶を～」とあるが、当然沿岸部の津波被災に関するコンテンツも提示すると思われるため、その場合は「せんだい 3.11 メモリアル交流館」と具体的コンテンツレベルで重複することになり、2つの施設の差異／役割分担が不明瞭になるのではないかと感じる。</p> <p>資料内に「せんだい 3.11 メモリアル交流館」について「大きな津波被害を受けた沿岸部にさらに軸足を置いた活動に注力」と示している通りだと思うが、それが施設としてどう現在と変わるのかのイメージがまだ湧かない。もしかしたら本施設の完成と同時に、「せんだい 3.11 メモリアル交流館」には抜本的な改革が必要となるのかもしれないと感じた。</p> <p>(イ)「海」を感じ、その存在と向き合うコンテンツは中心部にも必須</p> <p>「中心部震災メモリアル拠点」においては、内陸部での被災情報と合わせて沿岸部の被災情報についてのコンテンツは必須になるかと思う。とはいえ、立地条件としては海から遠く離れた場所に位置するため、津波そのものである「海」と向き合うことができない。とはいえ来館者の体験／記憶に残すためには「海」の存在と向き合うことは大切である。何がしかの方法で来館者に「海」の存在を感じ、向き合ってもらいたい強いコンテンツがあると良いので</p>	

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
	<p>はないか。</p> <p>例えば仙台市沿岸部の海をライブタイムで館内に映像投影したり、本施設に海を垣間見れる展望台を設置するなど、「海」そのものが難しいのであれば、「海が存在」と対峙できる何がしかの工夫があると良いかもしれない。(展望台を作ったとして海が見えるのか分からないため。あまりに存在感がない場合は展望台はない方が良いが。)</p> <p>(ウ) 「災害文化」を『生み出していく』場所でもあって欲しい</p> <p>中間案で「災害文化」の言葉の定義を示しているが、現在の社会に既にその芽が出ているものだけでなく、本施設が意図的に生み出す「災害文化」もぜひあってほしい。我々の社会がこれだけ大きな被害を受けた教訓が、これからの社会にとって少しでも多く役に立つものであってほしいと強く願っている。</p> <p>③周辺施設との回遊性について</p> <p>(ア) 散策したくなるデザインの必要性(都市計画の視点)</p> <p>中間案の各所(p52~54)に周辺施設との回遊性や都心部へのアクセスの重要性和、そのための「歩く過程を楽しめるような環境づくり・仕掛けづくり」を言及されており、これに関しては深く共感する。とはいえ本施設の敷地内だけでこの課題を解決することは極めて難しいため、本施設の敷地(19,200 m²)の外側を含めた、都市計画や公園設計の視点でのデザイン計画を検討することで、この課題解決に確実につながるものと思う。</p> <p>例えば、「回遊性を確保したいエリア全体を横断する動線を生む木製デッキ散策路」や「仲の瀬橋・大橋の歩道部分のリデザインを含めた都心部へのアクセス散策路の整備」など、専門家の意見も取り入れながら色んなデザイン案を検討することができる。本施設の建築設計をコンペ形式で行うのであれば、その課題のひとつとして建築と一緒に提案を募集するのも良いかもしれない。</p>	

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
	<p>(イ) エリア全体を横断する散策路整備の予算確保</p> <p>上記の都心部へのアクセスを含めたエリア全体の散策路の整備については、中間案の資料(整備事業費の検討 p57)からは読み取れない。その一部が「外構工事」や「その他関連費用」にあるのかもしれないが、周辺施設や都心部店舗等の経済効果に大きく影響を及ぼすとともに、本施設来館者の体験充実度にとっても非常に大事な要素であるため、積極的な予算確保が必要。</p> <p>仮に散策路整備の予算規模が建築工事の1~2%程度であったとしても、その対費用効果が相当大きいことは間違いない。</p>	
36	<p>①音楽ホールと中心部震災メモリアル拠点の合築について</p> <p>音楽ホールと中心部震災メモリアル拠点(以下メモリアル拠点)を合築することで、市政上かねてより問題になっていた音楽ホールの整備実現と、東日本大震災を機に醸成された防災の知見、震災の記録・記憶の保存(アーカイブ)、震災文化等との連携・協働・想像を目指す内容となっている。この点について大きな異論はないが、音楽ホールにはやはり音楽・演劇に関するコンテンツが集積し、反面、絵画や写真、映像、立体造形等のメディアムの作家たちが集う場にはなりにくいのではないかと懸念される。文化芸術を幅広く集積し、発信するためのより具体的な戦略の策定が欠かせない。</p> <p>②既存施設との連携・分担について</p> <p>すでに震災と震災文化に関するアーカイブはメディアテーク内の「3.11を忘れないためにセンター(わすれん!)」が全国的にも評価される市民協働型のアーカイブと情報発信を積極的になしており、地下鉄荒井駅のせんだい3.11せんだいメモリアル交流館でも、沿岸部のコミュニティと繋がりがながら地道に被災地の地域文化継承、被災体験の蓄積と発表を続</p>	<p>①につきましては、音楽ホールは基本方針で「実演芸術を中心とした仙台の文化芸術の振興を総合的に推進する拠点」と位置づけており(PI7)、ハード面においても実演芸術のための諸室を中心に構成されていることはご意見のとおりです。一方で、例えば基本方針の柱の1つである「復興の過程で明らかとなった文化芸術力を社会に生かす拠点」に基づく、社会包摂の視点に立った文化芸術体験機会の提供、災害文化の分野と連動した取組みなどは、実演芸術にとどまらない、幅広い文化芸術分野を取り込んだものとしていきたいと考えております。美術や映像文化等といった分野に関しては、せんだいメディアテークが拠点的役割を担っておりますので、施設間連携を十分に図り、本市の文化芸術全体の振興に努めてまいります。</p> <p>また、本市では、令和5年度中に「(仮称)仙台市文化芸術推進基本計画」を策定すべく、有識者懇話会などを行いながら検討を進めており、当計画において本市の文化芸術の総合的な方向性を定めてまいります。</p> <p>②につきましては、今後、中心部震災メモリアル拠点の事業を具体化する中で、新たに立ち</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
	<p>けている。また、市民協働という点においては、市民活動サポートセンターが震災で深刻化した地域・社会課題の解決に向けた市民活動の拠点・支援機能を維持している。これら既存施設が個々に積み重ねてきた震災にかかる多様な成果を、中心部メモリアル施設はどのように連携して行くのか？それら機能・成果を既存施設からあらためて引き取って事業化するのか、それとも各施設の活動とは別に0から新たな事業・コンテンツを生成して行くのか？もし後者であるとするむしろ各施設の現場・人材が非常に混乱して成果がかえって見えづらくなってしまふと思われる。</p> <p>③メモリアル施設における、防災と復興の関わりについて</p> <p>中間案で頻出する「防災」には、震災発災直後から復興のどの段階までを想定しているのか？被災者は避難所、応急・みなし仮設、災害公営住宅（高台移転）と何度も住まいと所属するコミュニティを変えながら暮らしの再建に努めてきており、発災から現在までの生活の全てが防災上の課題であり続けている。市社協では現在も災害公営住宅で見守り活動を継続しており、特に高齢独居の被災者については孤立と孤独死の問題は現在進行形で深刻なままである。こうした復興途上で発生してきた社会的なさまざまな問題もメモリアル拠点における事業内容に含めなければ、開館後に長く「防災」における社会的役割を果たし続けることはできない。</p> <p>④メモリアル施設における他被災地・自治体との連携</p> <p>東日本大震災は東北 3 県を中心とした広域災害であったことが特徴の一つである。岩手県、宮城県の沿岸被災地ではすでに多くの伝承施設・メモリアル施設がオープンしており、中間案に記されている通り本メモリアル施設は後発となる。東北の中心都市・最大都市が運営するメモリアル施設であれば、各地の同様な施設との情報・研究・人材の交流や協働</p>	<p>上げる事業と既存事業との連携を整理していくこととなりますが、本拠点のあり方として、これまで様々な事業を実施してきた既存施設等との協働・連携（P56）や、災害分野に限らない各種の施設や事業との連携（P32）を推進する運営のあり方が重要と考えておりますことから、引き続き人材確保や組織体制の検討を進めてまいります。</p> <p>③につきましては、中心部震災メモリアル拠点は、日常の生活スタイルとまちの仕組みに「防災」を組み込むことで、一生を通じ「災害を乗り越える文化」を醸成していく役割を目指しております。復興過程における様々な社会的課題も経験と教訓として捉えるべきであることから、その支援や解決につながる方策の創造や実行にいかに関わっていくかについて、事業の具体化の中で検討を行ってまいります。</p> <p>④につきましては、ご意見を踏まえ、基本計画において具体的に検討を進めてまいります。</p> <p>⑤につきましては、専門的人材の重要性とその稀少性についてはご意見のとおりと考えており、基本構想においても早い段階からの人材確保や新規育成等の取組みの重要性に触れております（P24,P32）。</p> <p>⑥につきましては、敷地内に一定の駐車場を整備する予定ですが、周辺の交通状況もあり、できる限り公共交通機関等で来場いただきたいと考えております。基本計画策定過程において駐車場の適切なあり方・規模の検討を行ってまいります（P55）。</p> <p>⑦につきましては、基本構想策定後、整備手法や管理運営主体のあり方等について具体化させていくこととなります。P24 や P32 に記載のとおり、本施設の運営組織においては、本</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
	<p>は不可欠と考える。特にこの点については基本計画において施設の位置付けとして明記すべき。</p> <p>⑤施設運営の人材確保と運用について 音楽ホール・メモリアル施設の合築においてシナジー効果を産むためには、中間案に記載されているように多種多様なプレイヤーやステークホルダーとの調整が可能なコーディネーターたる人材確保が不可欠である。しかしながら、想定される能力を有する人材は決して現状、全国的にも数は少なく、開館前からのリクルートと育成が必要ではないか。戦略的な人材確保について、建物の設計開始と同年度から取り組むことが望ましいと考える。</p> <p>⑥建物の立地と利便性について 建設予定地は、仙台市内で数少ない大型車の駐車可能な青葉山駐車場と重複する。以前から仙台市では観光バスやイベント実施に必要な大型車の駐車スペースが少ないことが課題となっており、本施設の整備時にはこれらへの配慮も必要と考える。また、2,000席キャパの公演が実施されることになれば、その集客は仙台圏のみならず、宮城県内全域から来仙することになる。その際に市内各地の駐車場が満車となり、不法駐車が増えるのであれば地域との共存が初歩からつまづきかねない。自家用車利用についても配慮を願いたい。</p> <p>⑦施設運営の手法について 整備手法については PPP、PFI、指定管理者方式が検討されているが、いずれにせよ、民間資本の活用が全国的に広がりつつも課題も各所で浮上している。開館後の収益が想定を下回ることによって民間事業者が撤退し、施設運営が立ち行かなくなるケースは後を絶たな</p>	<p>市の政策との協調、他分野・他機関との連携などが求められると考えておりますので、いただいたご意見を参考に検討を進めてまいります。</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
	<p>い。民間資本の導入が行政による施設運営の「民間丸投げ」という無責任この上ない状況を招かないためにも、基本計画においても市が運営そのものに積極的に当事者意識を持って参画することを明記いただきたい。</p>	
37	<p>計画している新しい施設では戦災に関する事業が含まれていないと聞いたがなぜか。戦災と震災を重ねて体験した街がどのように復興していったのか、とても貴重な視点である。</p> <p>世界で紛争が起きている今、この街が体験したことを語る場をなくさないでほしい。</p>	<p>仙台空襲や戦災復興事業に係る資料及び記録の保存・展示や戦災復興展の開催、市民の努力とその成果の記念については、戦災復興記念館がその役割を担っております。</p> <p>令和2年度に行った市内ホール施設の体系整理において、戦災復興記念館は、開館後40年以上が経過している状況も踏まえ「音楽ホール整備後、施設の更新を行わない方向での検討が望ましい」といたしました。これは戦災復興記念館が有する270席のホール機能に着目した整理であり、保存・展示機能の今後や運営等について併せて検討することを前提としたものでございます。</p> <p>なお、戦災復興記念館が果たしてきた戦災記録の保存・展示施設としての役割につきましては、その重要性を十分に踏まえ、関係資料の適切な保存や効果的な展示等に係る現状や課題等を整理しながら、どのように存続させるかの検討を進めてまいります。</p> <p>本施設に戦災復興記念館の保存・展示機能を移転することは想定していないところですが、災禍からの復興や経験と教訓の伝承という視点が災害伝承に共通すること、理念として「様々な『過去』にまなざしを向け、今を生きる人の糧とし、それをより良い『未来』づくりに生かす」(P8)ことを目指していることから、他施設との連携・協働事業などを通じ、本市の歴史を次世代に伝えていけるよう検討を進めてまいります。</p>
38	<p>戦災復興記念館は施設利用者が減ったとしても無くしてはならない。メモリアルアーカイブというなら戦災も大事だし、語り残さないとまた繰り返される。</p>	<p>戦災復興記念館は仙台空襲や戦災復興事業に係る記録の保存・展示機能を有し、戦災復興展を開催するなど、本市の戦災復興の資料及び記録を総合的に展示し、市民の努力とその成果を記念する役割を担っております。また、270席の記念ホールがあり、音楽など様々な</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
		<p>市民発表会の場としても広く利用されております。</p> <p>令和2年度に行った市内ホール施設の体系整理において、戦災復興記念館は、開館後40年以上が経過している状況も踏まえ「音楽ホール整備後、施設の更新を行わない方向での検討が望ましい」といたしました。これは戦災復興記念館のホール機能に着目した整理であり、保存・展示機能の今後や運営等について併せて検討することを前提としたものでございます。</p> <p>本基本構想P66は、このことに関する記載が不足しておりましたので、いただいたご意見を踏まえ、上記の内容を明記する形に文章を修正いたします。</p> <p>なお、戦災復興記念館が果たしてきた戦災記録の保存・展示施設としての役割につきましては、本施設への機能移転は想定していないところですが、その重要性を十分に踏まえ、関係資料の適切な保存や効果的な展示等に係る現状や課題等を整理しながら、どのように存続させるかの検討を進めてまいります。</p>
39	<p>①市民会館や戦災復興記念館など、周辺の関連施設との関係についての言及が見当たらない。統合・集約すべき施設と、後世まで語り継ぎ、残していくべき記録を、もっと市民を交えて考えていくべき。御用委員や関係団体だけの意見が市民の意見ではないはず。</p> <p>②PFIにするにしても、市の財政への負荷についても、正直に言及すべきと考える。</p>	<p>①につきましては、令和2年度に行った市内ホール施設の体系整理に基づく、他のホール施設も含めた将来体系像を P67 に掲載しております。また、P23、P53、P57等に記載しましたとおり、文化施設、災害伝承施設をはじめとする各種周辺施設との連携は重要と考えております。</p> <p>市民会館・戦災復興記念館は開館から40年以上が経過しておりますが、仙台市公共施設総合マネジメントプランでは、旧耐震基準の建築物である当該2館についての計画保全年数（計画的な保全措置を実施し、長期に使用していくことを目的に設定された期間）を50年としているところでございます。こうしたことから、令和2年度に行った市内ホール施設の体系整理において、「音楽ホール整備後、施設の更新を行わない方向での検討が望ましい」といたしました。これはホール機能に着目した整理であり、特に戦災復興記念館について</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
		<p>は、その保存・展示機能の今後や運営等について併せて検討することを前提としたものでございます。本基本構想P66は、このことに関する記載が不足しておりましたので、上記の内容を明記する形に文章を修正いたします。</p> <p>なお、本施設は基本理念に「人・文化・まちを育む創造の広場」を掲げ、「様々な『過去』にまなざしを向け、今を生きる人の糧とし、それをより良い『未来』づくりに生かしていく」との考え方を記しております(P8)。こうした視点を大切にしながら、引き続き市民の皆様のご意見を幅広く伺い、整備に向けた検討を進めてまいります。</p> <p>②の市の財政への負荷につきましては、P57 で現時点における整備事業費の考え方について言及しておりますが、今後の検討段階において整備手法の検討や整備事業費・管理運営費の精査を行い、市民の皆様にもお知らせしてまいります。</p>
40	<p>①人材確保・人材育成について</p> <p>本拠点の設立にあたっての適切な人材確保や、事業の実施における人材育成の観点が重視されていることは大事なことだと思う。これまでにない機能をもった拠点であるため、取り組みも自ずと独自性のあるものが生まれてくるのだと想像する。それゆえ、人材確保にあたっては過去の業績だけでなく、拠点とともに成長していく機会を与えるような若手の登用を積極的にして欲しい。それは「新たな」拠点としての対外的なメッセージとなり、活動的な世代の人材が登用されることで事業推進における市内外のネットワーク形成や、多様な主体との連携が促進されることも期待されるだろう。人材育成においては成果が現れるまで時間がかかるが、地域の文化の担い手の層を広げるために重要であること(大学等の専門機関の補完的な機能としても)単発のプログラムに留まらない人材育成「機関」となっ</p>	<p>①につきましては、本施設は基本理念に「人・文化・まちを育む創造の広場」を掲げましたとおり(P8)、人材の育成を施設の大きな使命と捉え、「目指す施設像の具体化」の箇所でも次世代の担い手の育成について記載しております(P10)。ご意見のとおり、長期的な展望を持ち、若い世代を登用・育成していくことは重要と考えていることから、今後、基本計画や管理運営の方針を策定していく中で、望ましいあり方について検討を進めてまいります。</p> <p>②につきましては、文化芸術と災害文化、そして地域の様々な領域を有機的に結びつけ、社会包摂や地域のレジリエンス向上を実現していくためには、コーディネーターとなる人材が大きな役割を果たしていくものと考えております。いただいたご意見は貴重なご提言として受け止め、今後、運営体制や事業のあり方の検討を進めていく際の参考とさせていただきます</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
	<p>ていくような展望をもって進めてほしい。</p> <p>②コーディネーター業務について コーディネーターの仕事は業務範囲が、常に拡張してしまう可能性がある。拠点の新たな機能をつくり、さまざまな主体との連携を進める本拠点の業務の性質において、各自の業務に自由度を持たせることが、その可能性を広げるためには必要だが、一方で雇用形態や活動に見合った報酬が不安定になりがちな職種でもある。業務管理的な視点のみならず、業務の成果を発揮するための仕事の自由度と待遇のバランスについては入念に議論を重ねてほしい。周辺施設や市の文化芸術施策との連携もうたわれているが、上記理由も含めて、本拠点の業務範囲を拡大しすぎないためにも大事な視点である（連携に資する取り組みは仙台市内でも十分あると考える）。ただし、連携こそが業務的に負荷が高いものでもある。誰がイニシアティブをとり、互いにどのような業務分担で進めるのか、効率的な運営の組織体制も検討が必要だと考える。</p> <p>③メモリアル機能について 日々の生活のなかで災害を乗り越える知恵や術について考え、日常生活に定着させていく視点を、震災を経験した土地として提示することは重要なものだと思う。その際に、メモリアル機能について「過去の災害の記憶を喚起し続ける機能」が示されているが、この「過去の災害」の範囲とは、2011年の震災に限らず、その他の震災、災害、戦災なども射程に含む必要があると考える。人は生きていくなかで、家族など含めて複数の災禍を経験する。複数のトピックがあることで生活のなかで、さまざまな面から災禍の接点を考えることができるだろう。 その意味で戦災復興記念館での取り組みとの連携は重視すべきではないだろうか。戦災</p>	<p>す。</p> <p>③につきましては、ご指摘のとおり災害は一度限りのものではなく、忘れたころにやってくるものであるからこそ、東日本大震災に限らず様々な災害の記憶や記録を喚起し続ける必要があると考えております。また、戦災復興を含む仙台のまちの歴史を扱う施設や機関との連携や、アーティストをはじめとする災害以外の分野との連携は、幅広い交流の創出や新たな関心を生むきっかけとなると考えておりますことから、ご意見を踏まえ、その具体的な方策につきまして検討を行ってまいります。</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
	<p>復興記念館においては存続について報道などもなされているが、本拠点においても活動を継承すべきだと考える。戦災は人類共通の経験でもある。本拠点が掲げる市外の人々、災禍に関わる人々との交流や関心を喚起するきっかけにもなる。この点においては、歴史民俗資料館や博物館の取り組みとの連携も同様の意義があると思う。</p> <p>特に震災後、仙台においては、せんだいメディアテークの取り組みやアーティストの活動を中心に、さまざまな災禍へかかわる創造的な活動が生まれてきた。本拠点の掲げる「創造」活動を軸とすることで、メモリアルセンターとして、さまざまな人々がかかわる「広場」となりうるのではないかと思う。</p>	
41	<p>今の世界的状況を鑑み、仙台がどのような戦争被害にあったのか、そして戦後、どのようにして復興を遂げていったのか、それらを継承していくことの重要性を盛り込むような内容、施設にしてほしい。</p>	<p>仙台空襲や戦災復興事業に係る資料及び記録の保存・展示や戦災復興展の開催、市民の努力とその成果の記念については、戦災復興記念館がその役割を担っております。</p> <p>また、270席の記念ホールがあり、音楽など様々な市民発表会の場としても広く利用されております。</p> <p>令和2年度に行った市内ホール施設の体系整理において、戦災復興記念館は、開館後40年以上が経過している状況も踏まえ「音楽ホール整備後、施設の更新を行わない方向での検討が望ましい」といたしました。これは戦災復興記念館のホール機能に着目した整理であり、保存・展示機能の今後や運営等について併せて検討することを前提としたものでございます。</p> <p>本基本構想P66は、このことに関する記載が不足しておりましたので、いただいたご意見を踏まえ、上記の内容を明記する形に文章を修正いたします。</p> <p>なお、戦災復興記念館が果たしてきた戦災記録の保存・展示施設としての役割につきましては、その重要性を十分に踏まえ、関係資料の適切な保存や効果的な展示等に係る現状や課題等を整理しながら、どのように存続させるかの検討を進めてまいります。</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
		<p>本施設に戦災復興記念館の保存・展示機能を移転することは想定していないところですが、災禍からの復興や経験と教訓の伝承という視点が災害伝承に共通すること、理念として「様々な『過去』にまなざしを向け、今を生きる人の糧とし、それをより良い『未来』づくりに生かす」(P8)ことを目指していることから、他施設との連携・協働事業などを通じ、本市の歴史を次世代に伝えていけるよう検討を進めてまいります。</p>
42	<p>仙台は第二次世界大戦中、日本の旧陸軍第二師団が置かれた(現仙台市歴史民俗資料館)軍都だったこともあり、戦災は過酷なものであった。とくに1945年7月10日の仙台空襲では街の中心部が焼け野原になり、今だにそのときの体験を語る人に会う。仙台に古い街並みが少ないのは、激しい空襲が要因の一つ。戦災復興記念館は当時の一次資料(原本)を展示し、『仙臺文化』の編集者の故渡邊慎也さんはじめ、定期的に戦争についての講座や直に語り合う機会を作ってきた。資料展示室がなくなるのは、歴史を封印する行為に等しい。軍靴の音がまた響き始めている今こそ必要。存続を強く願っている。</p>	<p>戦災復興記念館は仙台空襲や戦災復興事業に係る記録の保存・展示機能を有し、戦災復興展を開催するなど、本市の戦災復興の資料及び記録を総合的に展示し、市民の努力とその成果を記念する役割を担っております。また、270席の記念ホールがあり、音楽など様々な市民発表会の場としても広く利用されております。</p> <p>令和2年度に行った市内ホール施設の体系整理において、戦災復興記念館は、開館後40年以上が経過している状況も踏まえ「音楽ホール整備後、施設の更新を行わない方向での検討が望ましい」といたしましたが、これは戦災復興記念館のホール機能に着目した整理であり、保存・展示機能の今後や運営等について併せて検討することを前提としたものでございます。</p> <p>本基本構想P66は、このことに関する記載が不足しておりましたので、いただいたご意見を踏まえ、上記の内容を明記する形に文章を修正いたします。</p> <p>なお、戦災復興記念館が果たしてきた戦災記録の保存・展示施設としての役割につきましては、本施設への機能移転は想定していないところですが、その重要性を十分に踏まえ、関係資料の適切な保存や効果的な展示等に係る現状や課題等を整理しながら、どのように存続させるかの検討を進めてまいります。</p>
43	<p>戦災復興記念館がなくなり、この施設に統合されると聞いた。震災についての記録が残っ</p>	<p>戦災復興記念館は仙台空襲や戦災復興事業に係る記録の保存・展示機能を有し、戦災復興</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
	<p>ても、先の戦争についての記録が残らないのであれば、つまるところ大惨事の忘却を容認する姿勢になってしまう。まして戦争の報道はロシアのウクライナ侵攻により、より身近になってきている。戦災復興記念館の意義をもう一度振り返り、新しい施設の中でもその意義が継承されることを望む。</p>	<p>興展を開催するなど、本市の戦災復興の資料及び記録を総合的に展示し、市民の努力とその成果を記念する役割を担っております。また、270席の記念ホールがあり、音楽など様々な市民発表会の場としても広く利用されております。</p> <p>令和2年度に行った市内ホール施設の体系整理において、戦災復興記念館は、開館後40年以上が経過している状況も踏まえ「音楽ホール整備後、施設の更新を行わない方向での検討が望ましい」といたしました。これは戦災復興記念館のホール機能に着目した整理であり、保存・展示機能の今後や運営等について併せて検討することを前提としたものでございます。</p> <p>本基本構想P66は、このことに関する記載が不足しておりましたので、いただいたご意見を踏まえ、上記の内容を明記する形に文章を修正いたします。</p> <p>なお、戦災復興記念館が果たしてきた戦災記録の保存・展示施設としての役割につきましては、その重要性を十分に踏まえ、関係資料の適切な保存や効果的な展示等に係る現状や課題等を整理しながら、どのように存続させるかの検討を進めてまいります。</p> <p>本施設に戦災復興記念館の保存・展示機能を移転することは想定していないところですが、災禍からの復興や経験と教訓の伝承という視点が災害伝承に共通すること、理念として「様々な『過去』にまなざしを向け、今を生きる人の糧とし、それをより良い『未来』づくりに生かす」(P8)ことを目指していることから、他施設との連携・協働事業などを通じ、本市の歴史を次世代に伝えていけるよう検討を進めてまいります。</p>
44	<p>「音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点」基本構想において、「戦災復興記念館は更新しない」との一文を見かけ、詳細を知りたいと同時に、大いに疑問に思った。</p> <p>戦災復興記念館は仙台の災禍の伝承にこれまで大きく貢献し、小中学生や、仙台市外の人びとを広く受け入れてきた施設である。</p>	<p>戦災復興記念館は仙台空襲や戦災復興事業に係る記録の保存・展示機能を有し、戦災復興展を開催するなど、本市の戦災復興の資料及び記録を総合的に展示し、市民の努力とその成果を記念する役割を担っております。また、270席の記念ホールがあり、音楽など様々な市民発表会の場としても広く利用されております。</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
	<p>当館へ訪れた際、語り継ぎの活動をされているご高齢の戦争体験者と出会った。その方に聞いた語りを通し、かつての戦争や現在起きている戦争について考えられるようになった。記念館は記憶の継承の場であり、出来事に触れ続ける人のためのよすがでもある。</p> <p>「音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点」には東日本大震災の展示も構想されているようだが、まだ1世紀と経たない戦争にまつわる災禍を維持・更新できないとしたら、震災という出来事の伝承もまた同様に、仙台市では継承を意識的に継続できないまま風化させてしまうのではないかと懸念する。</p> <p>出来事を伝承するという観点で、新施設にも、戦災復興記念館の機能や役割を存続していただきたい。</p>	<p>令和2年度に行った市内ホール施設の体系整理において、戦災復興記念館は、開館後40年以上が経過している状況も踏まえ「音楽ホール整備後、施設の更新を行わない方向での検討が望ましい」といたしました。これは戦災復興記念館のホール機能に着目した整理であり、保存・展示機能の今後や運営等について併せて検討することを前提としたものでございます。</p> <p>本基本構想P66は、このことに関する記載が不足しておりましたので、いただいたご意見を踏まえ、上記の内容を明記する形に文章を修正いたします。</p> <p>なお、戦災復興記念館が果たしてきた戦災記録の保存・展示施設としての役割につきましては、その重要性を十分に踏まえ、関係資料の適切な保存や効果的な展示等に係る現状や課題等を整理しながら、どのように存続させるかの検討を進めてまいります。</p> <p>本施設に戦災復興記念館の保存・展示機能を移転することは想定していないところですが、災禍からの復興や経験と教訓の伝承という視点が災害伝承に共通すること、理念として「様々な『過去』にまなざしを向け、今を生きる人の糧とし、それをより良い『未来』づくりに生かす」(P8)ことを目指していることから、他施設との連携・協働事業などを通じ、本市の歴史を次世代に伝えていけるよう検討を進めてまいります。</p>
45	<p>戦災復興記念館が後継施設なしで消え去るのみという状態はあってはならない。</p> <p>戦争の記憶・記録を次世代まで語り継ぐ必要性は、まさに今、従来以上に高まっている。</p> <p>戦災復興記念館の役割を受け継ぐ機能は最優先で盛り込むべきである。</p>	<p>戦災復興記念館は仙台空襲や戦災復興事業に係る記録の保存・展示機能を有し、戦災復興展を開催するなど、本市の戦災復興の資料及び記録を総合的に展示し、市民の努力とその成果を記念する役割を担っております。また、270席の記念ホールがあり、音楽など様々な市民発表会の場としても広く利用されております。</p> <p>令和2年度に行った市内ホール施設の体系整理において、戦災復興記念館は、開館後40年以上が経過している状況も踏まえ「音楽ホール整備後、施設の更新を行わない方向での検討が望ましい」といたしました。これは戦災復興記念館のホール機能に着目した整理で</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
		<p>あり、保存・展示機能の今後や運営等について併せて検討することを前提としたものでございます。</p> <p>本基本構想P66は、このことに関する記載が不足しておりましたので、いただいたご意見を踏まえ、上記の内容を明記する形に文章を修正いたします。</p> <p>なお、戦災復興記念館が果たしてきた戦災記録の保存・展示施設としての役割につきましては、その重要性を十分に踏まえ、関係資料の適切な保存や効果的な展示等に係る現状や課題等を整理しながら、どのように存続させるかの検討を進めてまいります。</p> <p>本施設に戦災復興記念館の保存・展示機能を移転することは想定していないところですが、災禍からの復興や経験と教訓の伝承という視点が災害伝承に共通すること、理念として「様々な『過去』にまなざしを向け、今を生きる人の糧とし、それをより良い『未来』づくりに生かす」(P8)ことを目指していることから、他施設との連携・協働事業などを通じ、本市の歴史を次世代に伝えていけるよう検討を進めてまいります。</p>
46	<p>国際センター駅北地区複合施設ができることにより、「戦災復興記念館」の廃止の検討が浮上していることに強い危機感を感じている。</p> <p>中心部震災メモリアル拠点とは、一ヶ所の施設内で完結するものではなく、災害に限らず、さまざまな公共施設や、文化・社会活動をする民間団体や市民との連携の中に構築されていくものであると期待している。そのため、物理的にも近くにあり、災禍の記憶を継承するという拠点の役割を街中で担ってきた「戦災復興記念館」は、国際センター駅北地区複合施設が連携する施設として、特に重要な場所である。</p> <p>仙台空襲と東日本大震災を経験した地域だからこそ、被害の実態や出来事を伝えるだけでなく、「災禍の経験をいかに語り継ぐのか?」という災害伝承についての学びや考えを深められる、他にはない施設になり得るのではないかと。これまで、仙台空襲の伝承活動を続け</p>	<p>戦災復興記念館は仙台空襲や戦災復興事業に係る記録の保存・展示機能を有し、戦災復興展を開催するなど、本市の戦災復興の資料及び記録を総合的に展示し、市民の努力とその成果を記念する役割を担っております。また、270席の記念ホールがあり、音楽など様々な市民発表会の場としても広く利用されております。</p> <p>令和2年度に行った市内ホール施設の体系整理において、戦災復興記念館は、開館後40年以上が経過している状況も踏まえ「音楽ホール整備後、施設の更新を行わない方向での検討が望ましい」といたしましたが、これは戦災復興記念館のホール機能に着目した整理であり、保存・展示機能の今後や運営等について併せて検討することを前提としたものでございます。</p> <p>本基本構想P66は、このことに関する記載が不足しておりましたので、いただいたご意見を</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
	<p>てきた人たちの拠点となる場所、また世代を超えて体験者と非体験者との交流を育み続けてきた場所を、新しい施設によって廃止するのではなく、その蓄積を受け継いだり、互いに影響し合うような考え方を検討していただきたい。</p> <p>私は、震災後にボランティアとして東北に入り、仙台に7年間住んでいた。東日本大震災で経験したことを、どうすれば丁寧に、ここにいない人にも伝えることができるのか、映像という表現で向き合ってきた。あるとき、戦災復興記念館を通じて、語り部として活動されていた方と出会い、震災の継承にも深く理解を示され、若者の私たちの活動を気にかけて、いつも励ましてくださった。そのような出会いはきっと私だけではないはず。「伝え続ける」ことは一人ではできず、一人で担うには負荷が大きすぎる。それと同じように伝承施設も、一拠点に集約するのではなく、それぞれの活動が絶えないように、お互いに手を差し伸べ、支えあうような関わりを、少しでも増やしていく方向を目指してほしい。</p>	<p>踏まえ、上記の内容を明記する形に文章を修正いたします。</p> <p>なお、戦災復興記念館が果たしてきた戦災記録の保存・展示施設としての役割につきましては、その重要性を十分に踏まえ、関係資料の適切な保存や効果的な展示等に係る現状や課題等を整理しながら、どのように存続させるかの検討を進めてまいります。</p> <p>本施設に戦災復興記念館の保存・展示機能を移転することは想定していないところですが、災禍からの復興や経験と教訓の伝承という視点が災害伝承に共通すること、理念として「様々な『過去』にまなざしを向け、今を生きる人の糧とし、それをより良い『未来』づくりに生かす」(P8)ことを目指していることから、他施設との連携・協働事業などを通じ、本市の歴史を次世代に伝えていけるよう検討を進めてまいります。</p> <p>また、「戦禍の経験を語り継ぐ人」の交流という重要なご意見につきましても、今後の検討に生かしてまいります。</p>
47	<p>音楽ホールの設置について概ね賛成である。</p> <p>創造の部分について、市民の多様な期待に応えられるではなく、もっと壮大なプランでお願いしたい。世界級の音楽ホールを造り、全国からそして世界から人を呼べる音楽ホールにするなど、予算の問題はあるにせよ大きく物事を捉えてほしい。一流オーケストラや音楽家が是非とも仙台のホールで演奏したいと思えることが大事。</p> <p>仙台市民を動かせるキャッチーなタイトルを付け、例えばベルリンフィルやウィーンフィルの超一級オーケストラを毎年呼ぶなど分かりやすいプランを掲げ、全国そして世界のインバウンドも狙うべき。それにより、仙台フィルの技術向上にもつながり、また子供たちの情操教育にも必ずや繋がると思う。世界に仙台市を発信する素晴らしい場になるだろう。</p> <p>音楽ホールに携わっている仙台市の職員には、是非とも世界の名だたる音楽ホールの視察に予算を組んで上げてほしいとも思う。トップから物事を見ることは、やはり良いものを創る</p>	<p>大ホールにつきましては、「生の音源の響きに対する優れた音響性能の実現という視点を最重視し、この視点において望ましいホールの空間容積を確保するとともに、舞台形状、舞台設備、客席構造等の検討にも最先端の技術、最高度の知見を結集し、これからの時代を牽引し、国内外から高い評価を獲得できるホールを目指す。」(P39)という方向性で検討を進めております。高いクオリティを持った本格的な実演芸術作品の上演にふさわしい環境を備えると同時に、そのようなホールを市民の皆様にもご利用いただくことで、地域の文化芸術環境の充実や多様な人材の育成につなげ、仙台の文化芸術のさらなる発展や交流人口・関係人口の拡大に貢献してまいりたいと考えております。</p> <p>職員の視察やクラウドファンディングにつきましては、今後の事業の進め方の参考とさせていただきます。</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
	<p>上で欠かせない作業である。世界のトップクオリティーを見ずして、世界級のホールが出来ることは想像出来ない。是非、職員の視察予算を組んでほしい。</p> <p>また、大きくわかり易い仙台市民へ音楽ホールのプランを立ち上げ、クラウドファンディングなどで寄付金などを募るのもありだと思う。</p> <p>2031年に仙台市民で良かったな!仙台には市民が自慢出来る観光スポットがある。そんな夢をみたい。是非実現を願っている。</p>	
48	<p>市内の施設を集約化することによるコストカットのメリットはあると思うが、戦災復興記念館が設置された意図や貴重な展示を無くすことは、市民や全国の人々にとっての貴重な歴史を知る権利と機会を失ってしまう。新しい施設になってしまう場合でもその展示が引き継がれ、訪れる人たちに伝わるような展示が保持されることを望む。</p>	<p>戦災復興記念館は仙台空襲や戦災復興事業に係る記録の保存・展示機能を有し、戦災復興展を開催するなど、本市の戦災復興の資料及び記録を総合的に展示し、市民の努力とその成果を記念する役割を担っております。また、270席の記念ホールがあり、音楽など様々な市民発表会の場としても広く利用されております。</p> <p>令和2年度に行った市内ホール施設の体系整理において、戦災復興記念館は、開館後40年以上が経過している状況も踏まえ「音楽ホール整備後、施設の更新を行わない方向での検討が望ましい」といたしましたが、これは戦災復興記念館のホール機能に着目した整理であり、保存・展示機能の今後や運営等について併せて検討することを前提としたものでございます。</p> <p>本基本構想P66は、このことに関する記載が不足しておりましたので、いただいたご意見を踏まえ、上記の内容を明記する形に文章を修正いたします。</p> <p>なお、戦災復興記念館が果たしてきた戦災記録の保存・展示施設としての役割につきましては、その重要性を十分に踏まえ、関係資料の適切な保存や効果的な展示等に係る現状や課題等を整理しながら、どのように存続させるかの検討を進めてまいります。</p> <p>本施設に戦災復興記念館の保存・展示機能を移転することは想定していないところですが、災禍からの復興や経験と教訓の伝承という視点が災害伝承に共通すること、理念として</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
		<p>「様々な『過去』にまなざしを向け、今を生きる人の糧とし、それをより良い『未来』づくりに生かす」(P8)ことを目指していることから、他施設との連携・協働事業などを通じ、本市の歴史を次世代に伝えていけるよう検討を進めてまいります。</p>
49	<p>長い間待っていた。まずは音楽ホール建設に向けて努力されている皆様に感謝する。</p> <p>世界に肩を並べるホールを作してほしい。「東北一」は全く意味がない。予算諸々、課題がたくさんあることだろう。それでも、ベルリンフィルやウィーンフィルが“毎年”来てくれるホールにしてほしい。</p> <p>外側から好き勝手に言わせてもらうと、いろいろなしがらみや小さな利益の引っ張り合いはいらぬ。</p> <p>これで「毎年ベルリンフィルが呼べるのか」、その一点を目指して頂きたい。それが叶えば、地域全体のこと、子どもたちのこと…全てが付随して良い形になっていくと思う。</p> <p>クラウドファンディングをはじめるのであれば、応援させて頂きたい。</p> <p>建設に携わる中心にいる皆様方の、強い、熱い思いでぜひ実現させてほしい。私たちもできる限り応援する。</p>	<p>大ホールにつきましては、「生の音源の響きに対する優れた音響性能の実現という視点を最重視し、この視点において望ましいホールの空間容積を確保するとともに、舞台形状、舞台設備、客席構造等の検討にも最先端の技術、最高度の知見を結集し、これからの時代を牽引し、国内外から高い評価を獲得できるホールを目指す。」(P39)という方向性で検討を進めており、高いクオリティを持った本格的な実演芸術作品の上演にふさわしいホールにしてまいりたいと考えております。</p> <p>「子どもたちが文化芸術と触れ合う機会を創出し、生活の中に文化芸術が豊かにあふれる環境の醸成を図る」「若い世代に様々なチャンスや出会い、体験の機会を生み出す」(P22)といった事業の方向性も記載しておりますが、そうした取組みに際しても、優れた舞台環境の実現は大事な要素となるものと考えております。</p> <p>本市の文化芸術の発展、街全体の発展につなげられる施設となるよう、さらに検討を進めてまいります。</p>
50	<p>戦災復興記念館はどうなるのか。当時の経験者が減少している今、事実を伝える施設はより重要になる。</p> <p>戦争や空襲といった、人による暴力を記録として誰でも見られるかたちに残す場所を守ってほしい。</p>	<p>戦災復興記念館は仙台空襲や戦災復興事業に係る記録の保存・展示機能を有し、戦災復興展を開催するなど、本市の戦災復興の資料及び記録を総合的に展示し、市民の努力とその成果を記念する役割を担っております。また、270席の記念ホールがあり、音楽など様々な市民発表会の場としても広く利用されております。</p> <p>令和2年度に行った市内ホール施設の体系整理において、戦災復興記念館は、開館後40年以上が経過している状況も踏まえ「音楽ホール整備後、施設の更新を行わない方向での</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
		<p>検討が望ましい」といたしました。これは戦災復興記念館のホール機能に着目した整理であり、保存・展示機能の今後や運営等について併せて検討することを前提としたものでございます。</p> <p>本基本構想P66は、このことに関する記載が不足しておりましたので、いただいたご意見を踏まえ、上記の内容を明記する形に文章を修正いたします。</p> <p>なお、戦災復興記念館が果たしてきた戦災記録の保存・展示施設としての役割につきましては、本施設への機能移転は想定していないところですが、その重要性を十分に踏まえ、関係資料の適切な保存や効果的な展示等に係る現状や課題等を整理しながら、どのように存続させるかの検討を進めてまいります。</p>
51	<p>音楽ホールとメモリアル拠点が別々に運用されて、一部事業などで連携する、というように感じる。</p> <p>例えば、音楽ホールの基本方針中の「機能」のなかに震災の表記がなく、事業の概要部分にしか記載がない。一方、メモリアルについては「機能」のなかの2,3に文化という言葉がある。それでよいのか。</p> <p>世界に類をみない施設を作ろうとしているはず。この施設で文化芸術を営むことになる国内外の人々は、震災が起きた土地で実践していくことにおおいに関心を持って訪れるはず。常にこの施設は震災と文化芸術との関係でもって運営されていくしかないのだから、一部の事業連携という考えは捨てて、一体となって機能も事業も考えられていくことを期待する。</p>	<p>本施設の基本理念「人・文化・まちを育む創造の広場～芸術文化と災害文化がつなぐ 人と人、過去と未来、世界と仙台～」のとおり(P8)、「文化芸術と災害文化という『文化』の施設であること」「3.11を起点に持つこと」という共通点を踏まえ、双方の特性やノウハウを融合させた、複合施設ならではの取組みが求められるものと認識しております。</p> <p>この理念のもと、文化芸術の総合拠点を目指す音楽ホールと、災害文化の創造拠点を目指す中心部震災メモリアル拠点がそれぞれ固有のミッション(使命)を果たしつつ、効果的な協働事業を実施できるよう、いただいた意見を参考としながら、これらを最良の形で推進できる管理運営体制のあり方について今後検討を進め、市民はもとより広域からも人を呼び込み、さらに世界にもつながる施設を目指してまいります。</p>
52	<p>コスト削減や震災復興のシンボルをつくるのも大事だと理解できるが、今の世界情勢をみても戦災復興記念館を無くす(複合施設にも入れない)のは反対。</p> <p>大人も子どもも平和は維持しよう意識しなければ、維持できない。それを学ぶことのでき</p>	<p>戦災復興記念館は仙台空襲や戦災復興事業に係る記録の保存・展示機能を有し、戦災復興展を開催するなど、本市の戦災復興の資料及び記録を総合的に展示し、市民の努力とその成果を記念する役割を担っております。また、270席の記念ホールがあり、音楽など様々な</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
	<p>る場所は必要。</p> <p>近年の文化的価値の高い宮城県美術館の移設なども含め、仙台は古く良いものを残さずに新しいものに飛び付く姿勢を変えていくべき。</p> <p>仙台の街づくりは、どこに向かっているのか。長年住んでいても、何を一番大切にしているのか分からない。</p> <p>ニューヨークタイムズ紙の訪れるべき場所2位に選ばれた盛岡や、宮城県美術館の建築士前川國男の建物を大切に守る弘前市などはもともと持っている文化や風土を生かしている。少し見習うべきではないか。根本から見直すべき。</p>	<p>市民発表会の場としても広く利用されております。</p> <p>令和2年度に行った市内ホール施設の体系整理において、戦災復興記念館は、開館後40年以上が経過している状況も踏まえ「音楽ホール整備後、施設の更新を行わない方向での検討が望ましい」といたしましたが、これは戦災復興記念館のホール機能に着目した整理であり、保存・展示機能の今後や運営等について併せて検討することを前提としたものでございます。</p> <p>本基本構想P66は、このことに関する記載が不足しておりましたので、いただいたご意見を踏まえ、上記の内容を明記する形に文章を修正いたします。</p> <p>なお、戦災復興記念館が果たしてきた戦災記録の保存・展示施設としての役割につきましては、本施設への機能移転は想定していないところですが、その重要性を十分に踏まえ、関係資料の適切な保存や効果的な展示等に係る現状や課題等を整理しながら、どのように存続させるかの検討を進めてまいります。</p>
53	<p>戦災復興記念館は東北の小中学生たちの学びの場として、地域でも空襲の事実や状況を伝えるものが少なくなる中で、貴重な学びの場となっている。空襲や戦争を体験した人が少なくなる今後こそ、こうした施設の重要性が増しており、廃止すべきでない。昨年まで仙台に5年ほど暮らした中で、仙台という街の在り方は空襲を抜きにして考えることはできないと感じていた。世界情勢が不安定になる中、自分たちの街が経験した厄災について知ることができる場所や機会を市民から奪ってしまうのは問題がある。廃止ではなく、移転とすべき。</p>	<p>戦災復興記念館は仙台空襲や戦災復興事業に係る記録の保存・展示機能を有し、戦災復興展を開催するなど、本市の戦災復興の資料及び記録を総合的に展示し、市民の努力とその成果を記念する役割を担っております。また、270席の記念ホールがあり、音楽など様々な市民発表会の場としても広く利用されております。</p> <p>令和2年度に行った市内ホール施設の体系整理において、戦災復興記念館は、開館後40年以上が経過している状況も踏まえ「音楽ホール整備後、施設の更新を行わない方向での検討が望ましい」といたしましたが、これは戦災復興記念館のホール機能に着目した整理であり、保存・展示機能の今後や運営等について併せて検討することを前提としたものでございます。</p> <p>本基本構想P66は、このことに関する記載が不足しておりましたので、いただいたご意見を</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
		<p>踏まえ、上記の内容を明記する形に文章を修正いたします。</p> <p>なお、戦災復興記念館が果たしてきた戦災記録の保存・展示施設としての役割につきましては、本施設への機能移転は想定していないところですが、その重要性を十分に踏まえ、関係資料の適切な保存や効果的な展示等に係る現状や課題等を整理しながら、どのように存続させるかの検討を進めてまいります。</p>
54	<p>『サピエンス全史』の中で、人類は戦争を克服したと語られていたが、ロシアによるウクライナ侵攻が始まったいま、それは誤りだったことが明らかになった。そういった社会情勢を鑑みても、戦災復興記念館は廃止すべきでは無いと考える。維持管理などの現実的な問題はあるにせよ、十分な議論がなされていないように感じる。</p>	<p>戦災復興記念館は仙台空襲や戦災復興事業に係る記録の保存・展示機能を有し、戦災復興展を開催するなど、本市の戦災復興の資料及び記録を総合的に展示し、市民の努力とその成果を記念する役割を担っております。また、270席の記念ホールがあり、音楽など様々な市民発表会の場としても広く利用されております。</p> <p>令和2年度に行った市内ホール施設の体系整理において、戦災復興記念館は、開館後40年以上が経過している状況も踏まえ「音楽ホール整備後、施設の更新を行わない方向での検討が望ましい」といたしました。これは戦災復興記念館のホール機能に着目した整理であり、保存・展示機能の今後や運営等について併せて検討することを前提としたものでございます。</p> <p>本基本構想P66は、このことに関する記載が不足しておりましたので、いただいたご意見を踏まえ、上記の内容を明記する形に文章を修正いたします。</p> <p>なお、戦災復興記念館が果たしてきた戦災記録の保存・展示施設としての役割につきましては、本施設への機能移転は想定していないところですが、その重要性を十分に踏まえ、関係資料の適切な保存や効果的な展示等に係る現状や課題等を整理しながら、どのように存続させるかの検討を進めてまいります。</p>
55	<p>第二次世界大戦から時が経ち、戦災の記憶が失われつつあるなかで、公的な施設として</p>	<p>戦災復興記念館は仙台空襲や戦災復興事業に係る記録の保存・展示機能を有し、戦災復</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
	<p>記録を引き継いでいくことの重要性が十分に議論されたのか疑問。小中学生の学びの場としての成果があるだけでなく、今後その記録の重要性は増して行くはず。</p> <p>また昨今のウクライナとロシアの戦争をはじめとする世界情勢から考えても、戦災復興記念館を廃止とすることは時代に逆行しているのではないか。戦争の記憶や歴史を断絶させることなく未来の人々に引き継いでいくことは、現在に生きている我々にとって重要な役割であり、廃止するべきではない。</p>	<p>興展を開催するなど、本市の戦災復興の資料及び記録を総合的に展示し、市民の努力とその成果を記念する役割を担っております。また、270席の記念ホールがあり、音楽など様々な市民発表会の場としても広く利用されております。</p> <p>令和2年度に行った市内ホール施設の体系整理において、戦災復興記念館は、開館後40年以上が経過している状況も踏まえ「音楽ホール整備後、施設の更新を行わない方向での検討が望ましい」といたしました。これは戦災復興記念館のホール機能に着目した整理であり、保存・展示機能の今後や運営等について併せて検討することを前提としたものでございます。</p> <p>本基本構想P66は、このことに関する記載が不足しておりましたので、いただいたご意見を踏まえ、上記の内容を明記する形に文章を修正いたします。</p> <p>なお、戦災復興記念館が果たしてきた戦災記録の保存・展示施設としての役割につきましては、本施設への機能移転は想定していないところですが、その重要性を十分に踏まえ、関係資料の適切な保存や効果的な展示等に係る現状や課題等を整理しながら、どのように存続させるかの検討を進めてまいります。</p>
56	<p>大ホールについて、「『楽都仙台』を象徴する実演芸術の拠点」を目指すためには、オペラやバレエ等の上演形態は諦め、器楽に特化したヴィンヤード型のホールを造ることが望ましい。仙台で行われているオペラやバレエなどの公演を観に行くが、客席を埋められておらず、上演に適したホールが求められているのではなく、イベントの運営自体を見直す必要があると考えられる。また、吹奏楽や合唱の全国大会というアマチュアの利用を促進することが、仙台の文化芸術の発展に寄与するものかは疑問。貸館として便利なホールではなく、日本全国から、そして海外からも注目され、プロフェッショナルが使用したくなるホールが目指されるものではないか。そのため、プロセニウム形式ではなくヴィンヤード型を推奨する。</p>	<p>音楽ホールは、現在の本市の文化芸術活動やホール施設の状況を踏まえ、「仙台の文化芸術の総合拠点」として(P17)、クラシックのコンサートやオペラ・バレエなど多様な実演芸術の上演が可能な大ホールを備えることとしたものでございます(P39)。</p> <p>望ましいホールの空間容積を確保するとともに、舞台形状、舞台設備、客席構造等の検討にも最先端の技術、最高度の知見を結集することで、高い評価を受けている国内外のクラシック専用ホールと同様の優れた音響性能の実現を目指してまいります。</p> <p>そのためには音響設計が重要であると認識しており、音響設計者の選定や業務推進体制、ホールの音響実験模型の作成の必要性などを含め、効果的なあり方を検討してまいります。</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
	<p>プロセニウム形式は客席の限られた場所に鑑賞に適したスイートスポットがあり、両端など壁に近いエリアは反響音が多く聞きづらく、また見づらくなる。ヴィンヤード型はステージを前横後から囲むように客席で囲むため、様々な方向でも見やすくなる。またプロセニウム形式のように音の放射を邪魔する壁もないため、ホール全体や客席を含めて音が反射し、どこにいても聴きやすい音響になる。日本でもサントリーホールや札幌コンサートホール Kitara、海外でもウォルト・ディズニー・コンサートホール、エルプフィルハーモニーなど客席が 2000 を越える大ホールにヴィンヤード型が用いられており、世界中のオーケストラ団体からその音響に高い評価を受けている。貸館による収益や、利便性を指すのではなく、プロの音楽家が評価できるようなホールを造ることが、結果「楽都仙台」を育てることになるのではないかと。</p>	<p>(P45)。</p>
57	<p>①青葉山音楽ホール、宮城県民会館、仙台市役所庁舎、泉区役所庁舎、等の、異常高額建設を容認すると、仙台市、宮城県に限らず、日本中が異常高額「箱もの」と、全く仕事のない「異常過剰公務員」で覆い尽くされ、少子高齢、(人口激減)、経済無成長、等が、常態化、脱却不能化、してしまうのではないかと。</p> <p>宮城県に限らず、7000 席超等の(スーパー)アリーナが、ポップミュージック・コンサート会場のトレンドとなっており、2000 席クラスの県民会館/市民会館の設置ニーズが大幅に減少しているのではないかと。</p> <p>盲目的に、県庁所在地に、県と市、2 つの公共音楽ホールを設置する、従来慣行を排し、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 青葉山音楽ホール、新宮城県民会館の異常高額建設計画は、即刻廃止。 2. 仙台市民、宮城県民、経済界、(興行側)、何れにおいても期待が多いように見える、定禅寺通に、民間資金、民間運営で、仙台市/宮城県合併ホールを設置、 	<p>①につきましては、本市では、長年にわたり多くの市民の皆様から本格的なホール施設整備のご要望をいただいております。開館後 40 年以上が経過した市民会館・戦災復興記念館のホール機能の受け皿が必要であることや、仙台国際音楽コンクールや市民主体の活発な活動など文化芸術面の蓄積、未来に向けた魅力ある都市文化の創造といった観点からも、必要な施設であると認識しております。</p> <p>また、令和2年度に実施した需要想定調査によって、新たな県民会館の整備後においても、十分な需要が見込めることを確認しております(P59~P68)。</p> <p>定禅寺通に関するご意見につきましては、当該エリアの今後のまちづくりを考える際の参考とさせていただきます。</p> <p>②の仙台国際センターにつきましては、本市における国際交流及び市民交流の推進並びに産業、学術及び文化の振興に資するべく設置しています。また、全ての会議室、ホールは国</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
	<p>②3-1. 仙台国際センターを、震災記念/多文化共生センターに変更、</p> <p>3-2. 大会議室「萩」、「橘」、「桜」等を改装、東日本大震災記念施設として、(社会見学等に際して、)震災映像等の映写等を実施すべきではないか。</p> <p>3-3. 大ホールを、古典芸能、落語、(音楽同好会)、等、1000 席クラスが妥当なイベント会場として活用すべきではないか。</p>	<p>際会議や学会、企業研修をはじめとする MICE を行う施設として多くの利用があり、今後とも本市における MICE 開催の中核施設として交流人口の拡大及び地域経済の活性化に繋がってまいります。</p>
58	<p>戦災復興記念館は更新しないとのことだが、災害の歴史を繋いで行くことは重大な行政・市民の役割と考える。</p> <p>戦災の記録は時間の経過とともに関心が薄まり、来館者も減るのかもしれないが、そうならない工夫をしていくこと、戦災から平和を学ぶこと、それらは全てこの先の未来の姿に影響を与える。</p> <p>移転し縮小し継続するのかもしれないが、そのことで関心がさらに薄まることになればなんの意味もない。</p> <p>継承すべきことは何か。2023 年においても必要なことが戦災復興の歴史の中にあるという視点を持ち、運用することが行政や市民のすべきことと考える。</p> <p>老朽化で建造物が消失するのは致し方ないが、戦災復興の歴史を土台にした機関をしっかりとして予算を取って運営することを放棄しないでほしい。文化はそのような学びの上に育つ。</p> <p>戦災復興専門の機関の存続と未来へ向けた活用を望む。</p>	<p>戦災復興記念館は仙台空襲や戦災復興事業に係る記録の保存・展示機能を有し、戦災復興展を開催するなど、本市の戦災復興の資料及び記録を総合的に展示し、市民の努力とその成果を記念する役割を担っております。また、270席の記念ホールがあり、音楽など様々な市民発表会の場としても広く利用されております。</p> <p>令和2年度に行った市内ホール施設の体系整理において、戦災復興記念館は、開館後40年以上が経過している状況も踏まえ「音楽ホール整備後、施設の更新を行わない方向での検討が望ましい」といたしました。これは戦災復興記念館のホール機能に着目した整理であり、保存・展示機能の今後や運営等について併せて検討することを前提としたものでございます。</p> <p>本基本構想P66は、このことに関する記載が不足しておりましたので、いただいたご意見を踏まえ、上記の内容を明記する形に文章を修正いたします。</p> <p>なお、戦災復興記念館が果たしてきた戦災記録の保存・展示施設としての役割につきましては、本施設への機能移転は想定していないところですが、その重要性を十分に踏まえ、関係資料の適切な保存や効果的な展示等に係る現状や課題等を整理しながら、どのように存続させるかの検討を進めてまいります。</p>
59	①震災と文化芸術	①につきましては、音楽ホールと中心部震災メモリアル拠点それぞれが固有のミッション（使

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
	<p>これまで音楽ホールは東日本大震災の復興記念として設立を要望されてきた経緯がある。また、仙台市も復興というメッセージを掲げ、音楽やその他の文化事業を多く行なってきた経過・実績がある。</p> <p>「震災復興」を掲げてきた仙台の音楽ホールが震災のメモリアル施設と複合施設になるということで、文化芸術を通して震災を伝えていくことがミッションになり、施設や事業としてもっと積極的に行うものになるのかとイメージしていた。</p> <p>しかし中間案では、文化芸術と震災を事業として融合（協奏）していく観点や、それを踏まえて新しい文化芸術を作り出していく具体案が足りないと感じた。ぜひ最終案や基本計画では、それらを融合したソフトやハードの提案が盛り込まれてほしい。また、将来的な体制でも、施設管理や音楽ホールとメモリアルの事業部署とは別に、震災や災害、社会包摂等の他分野などに向き合い、創造的な文化芸術を協奏的に創り出すための核となる4つ目の部署があれば良いと感じた。</p> <p>委員の発言のまとめを見ても、上記を議論するための材料が委員に対しても提供が少ないのではないかと危惧している。その材料を掘り起こすことからスタートしてほしい。</p> <p>例えば東日本大震災では、音楽や演劇、美術やメディアアート、文学など、様々な文化芸術で震災を題材とした作品が生まれ、それに関する活動も生まれてきた。いまそれらを掘り起こし、発信・保存してもらうとともに、文化芸術の作品を通してどのように震災が考えられてきたかを学ぶことができる施設になってほしい。そして震災当時に子どもだった10～20代の若者が、そのような作品作りや活動ができるように、新しいアート作品を作るための拠点となることを願っている。</p> <p>②メモリアル機能</p> <p>市内には、津波の脅威と教訓（防災）を伝えるための荒浜小学校、沿岸部の暮らしや文化</p>	<p>命)を有すると同時に、双方の特性やノウハウを融合させた、複合施設ならではの取組みを実施することが本施設の役割であると認識しております。基本構想では想定される連携・協働事業の例をP13にお示したところですが、今後、基本計画や管理運営の方針を策定していくにあたり、本施設ならではの取組みについて、幅広くご意見を伺いながら議論を深めていくとともに、開館に向けた先行的な取組みの中で具体化を進めてまいります。</p> <p>②につきましては、仙台市内の様々な方が震災を「我が事」として捉え、未来に継承していける施設となるよう、いただいた貴重なご意見を踏まえ検討を進めてまいります。</p> <p>③につきましては、戦災復興記念館は仙台空襲や戦災復興事業に係る記録の保存・展示機能を有し、戦災復興展を開催するなど、本市の戦災復興の資料及び記録を総合的に展示し、市民の努力とその成果を記念する役割を担っております。また、270席の記念ホールがあり、音楽など様々な市民発表会の場としても広く利用されております。</p> <p>令和2年度に行った市内ホール施設の体系整理において、戦災復興記念館は、開館後40年以上が経過している状況も踏まえ「音楽ホール整備後、施設の更新を行わない方向での検討が望ましい」といたしましたが、これは戦災復興記念館のホール機能に着目した整理であり、保存・展示機能の今後や運営等について併せて検討することを前提としたものでございます。</p> <p>本基本構想P66は、このことに関する記載が不足しておりましたので、いただいたご意見を踏まえ、上記の内容を明記する形に文章を修正いたします。</p> <p>なお、戦災復興記念館が果たしてきた戦災記録の保存・展示施設としての役割につきましては、本施設への機能移転は想定していないところですが、その重要性を十分に踏まえ、関係資料の適切な保存や効果的な展示等に係る現状や課題等を整理しながら、どのように</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
	<p>を伝えるための荒井の交流館が既にある。また、他の市町村においても、津波の被害をリアルに感じられる施設が沿岸部にたくさんある。</p> <p>しかし東日本大震災では、津波だけでなく、様々な災害（物理的な事象）が複合的におき、そして津波の被害を受けた（主に）沿岸部の市民だけでなく、そのほかの地域の一人一人が被災した経験を伝える施設が市内にはない（東北の沿岸部にもないだろう）。</p> <p>そこで中心部拠点では、沿岸部だけでなく、平野部や丘陵部で震災を体験した市民、原発事故の避難者など、仙台市内のさまざまな場所にいた人が体験した震災の記録を丁寧に紹介し、辿れる施設となってほしい。例えば、ある市民が自ら、市外の家族や知人、さらに新たに生まれてくる子どもに対して、仙台市民の「私」の震災体験はこうだったと、案内して伝えたい展示になってほしい。</p> <p>なお、新潟の中越大地震のメモリアル施設も複数つくられたが、最後に完成した施設である山古志村の「やまこし復興交流館おらたる」の展示の一部も参考にしてほしい。ここでは元村民の方が展示施設に入りやすいように、怖さを伝える「黒色」の空間を避け「白色」の明るい空間とし、よく見かける教訓や防災のメッセージもほとんどないが、その施設展示からは山古志村の地形や地理的な特徴や歴史と災害が起こった理由、災害が起きてからの経過や避難、復興などが外部の人にもわかりやすく伝わる展示になっている（改善すべき点もあるし、仙台市の中心部拠点と比較すると小規模な展示だが）。</p> <p>③戦争と空襲の展示</p> <p>施設の老朽化により、音楽ホール完成を契機に、戦災復興記念館は閉館する予定だと新聞報道で知った。</p> <p>戦争と仙台大空襲を伝える展示は、複合施設かその他の施設でも良いが残してほしい。</p> <p>展示を残す際には、現在の空襲の被害と復興という観点だけでなく、仙台が軍都であった</p>	<p>存続させるかの検討を進めてまいります。</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
	<p>事実、市民が兵隊として招集されたことなども含め、専門家による多角的な知見を踏まえ、展示内容をリニューアルしてほしい。</p>	
60	<p>戦災復興記念館がなくなり、新しい複合施設にもその内容は含まれないと聞いた。</p> <p>戦災復興記念館は確かに日常的に多くの人が集う場所ではないかもしれない。しかし文化施設として、歴史資料として、宮城県や仙台市になくしてはならない場所である。</p> <p>戦災復興記念館を残すことができない理由があるなら開示し、市民や仙台の地を大切に思う人たちが解決していくことが望ましい。</p> <p>「学都・仙台」と言われている街が、文化や歴史にまつわる施設を簡単になくしてもいいとは思えない。どうすれば残すことができるのか、宮城県や仙台にゆかりのある知識人・専門家みなさんに協力を仰ぎ、検討していく。その姿を見せてこそ、「学都」を名乗ることができるのではないか。</p> <p>亡くなった祖母や曾祖母は、私に仙台空襲の話をよくしてくれた。どれだけ恐ろしかったか、空襲を生き延びて孫に会えたことがどれだけ嬉しかったか。</p> <p>いま、そのようなことを語ってくださる先輩方も少なくなっている。</p> <p>また、世界中の紛争地域や、ロシア・ウクライナの争いについて考える際には、身近な場所の戦争の跡を知ることで、若い世代に考えるヒントを与えられるのではないか。</p> <p>戦災復興記念館を残すことで、次世代、その次の世代の子どもたちが、再び戦禍に飛び込むことのないようにしたい。そのために、今後の施設の活用方法などを前向きに考えてもらえないか。</p> <p>多くの市民や元市民が、戦災復興記念館を残すことを望んでいると思う。またそれは戦災・震災を経験してきた仙台だからこそその使命でもあるはず。</p> <p>今一度戦災復興記念館の重要性と、存続について検討を。</p>	<p>戦災復興記念館は仙台空襲や戦災復興事業に係る記録の保存・展示機能を有し、戦災復興展を開催するなど、本市の戦災復興の資料及び記録を総合的に展示し、市民の努力とその成果を記念する役割を担っております。また、270席の記念ホールがあり、音楽など様々な市民発表会の場としても広く利用されております。</p> <p>令和2年度に行った市内ホール施設の体系整理において、戦災復興記念館は、開館後40年以上が経過している状況も踏まえ「音楽ホール整備後、施設の更新を行わない方向での検討が望ましい」といたしました。これは戦災復興記念館のホール機能に着目した整理であり、保存・展示機能の今後や運営等について併せて検討することを前提としたものでございます。</p> <p>本基本構想P66は、このことに関する記載が不足しておりましたので、いただいたご意見を踏まえ、上記の内容を明記する形に文章を修正いたします。</p> <p>なお、戦災復興記念館が果たしてきた戦災記録の保存・展示施設としての役割につきましては、本施設への機能移転は想定していないところですが、その重要性を十分に踏まえ、関係資料の適切な保存や効果的な展示等に係る現状や課題等を整理しながら、どのように存続させるかの検討を進めてまいります。</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
61	<p>県民会館の移転新築が2000人規模のホールを計画し、山形市、秋田市には2000人超を収容できオペラも開催できるホールがすでに完成して稼働している。客観的に見て仙台市が客席2000人のホールを今から建築するという根拠が希薄ではないか。そして廃館されるという戦災復興記念館の展示品の行方も気になる。せめて県民会館の跡地利用が決定するまでは青葉山地区での音楽ホール建設は棚上げすべきと考える。市長は音響効果も国内トップクラスのホールをと言っているが、そのようなホールの建設経費をわかっているのか。仙台市は身の丈に合わせた「箱モノ」を造るべきであって、背伸びして財政破綻を招く愚を犯してはならない。市庁舎の建て替えもある、考慮に考慮を重ね慎重に進めてほしい。</p>	<p>本市では、長年にわたり多くの市民の皆様から本格的なホール施設整備のご要望をいただいております。開館後40年以上が経過した市民会館・戦災復興記念館のホール機能の受け皿が必要であることや、仙台国際音楽コンクールや市民主体の活発な活動など文化芸術面の蓄積、未来に向けた魅力ある都市文化の創造といった観点からも、必要な施設であると認識しております。</p> <p>また、令和2年度に実施した需要想定調査によって、新たな県民会館の整備後においても十分な需要が見込めることを確認しております(P59~P68)。</p>
62	<p>これまで悲願だった2000人規模の音の良い音楽ホールがようやく出来ることを嬉しく思う。</p> <p>施設を考える人、作る(建てる)人、運営する人がバラバラで、オープンしてから使い勝手がよくないアレコレが散見するケースが時々ある。建物が出来上がってから指定管理などで運営事業者を決めるのかもしれないが、オーケストラや舞台上がる人、施設を訪れる市民・聴衆が気持ちよく使える施設になってほしい。</p> <p>それには建設する前の段階から運営事業者や演奏者が関わる事が大事ではないか。人や車の動線を考慮し、公共交通を選んでもらえる工夫も必要。公演や企画について「仙台割」のような地域割引制度を導入し、市民の文化度をアップしていくとか、みんなが行きたくなる仕掛け、参加しやすい仕組みに期待している。</p>	<p>施設整備にあたりましては、実際に施設を利用したり運営に携わったりする方々のご意見を早期から取り入れることや、構想・計画、設計・施工、運営など一連の過程において一貫した考え方を持つことが大変重要であると認識しております。</p> <p>本基本構想の策定にあたっては、様々な形で市民や関係者の皆様からのご意見を伺ってまいりましたが(P3~P4、P90~P100)、今後の整備過程においても引き続き幅広い意見聴取を行っていくとともに、指定管理者制度の導入の有無や望ましい選定方法のあり方についての検討を進めてまいります。</p> <p>また、公共交通機関等による来館の促進につながる工夫や市民の皆様が訪れたいような仕掛け等につきましても、併せて検討してまいります。</p>
63	<p>何度か利用したことがある戦災復興記念館がなくなってしまうそうだが、展示などは残せな</p>	<p>戦災復興記念館は仙台空襲や戦災復興事業に係る記録の保存・展示機能を有し、戦災復</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
	<p>いのか。戦災からの復興が今の仙台市を形作る基礎だと思う。</p>	<p>興展を開催するなど、本市の戦災復興の資料及び記録を総合的に展示し、市民の努力とその成果を記念する役割を担っております。また、270席の記念ホールがあり、音楽など様々な市民発表会の場としても広く利用されております。</p> <p>令和2年度に行った市内ホール施設の体系整理において、戦災復興記念館は、開館後40年以上が経過している状況も踏まえ「音楽ホール整備後、施設の更新を行わない方向での検討が望ましい」といたしました。これは戦災復興記念館のホール機能に着目した整理であり、保存・展示機能の今後や運営等について併せて検討することを前提としたものでございます。</p> <p>本基本構想P66は、このことに関する記載が不足しておりましたので、いただいたご意見を踏まえ、上記の内容を明記する形に文章を修正いたします。</p> <p>なお、戦災復興記念館が果たしてきた戦災記録の保存・展示施設としての役割につきましては、本施設への機能移転は想定していないところですが、その重要性を十分に踏まえ、関係資料の適切な保存や効果的な展示等に係る現状や課題等を整理しながら、どのように存続させるかの検討を進めてまいります。</p>
64	<p>15年前、中部地方から仙台市へ転居した。前の居住地は大きな空襲被害に遭っており、私は空襲の調査や研究に携わってきた。私共各地の者にとって、仙台市戦災復興記念館は空襲のシンボリック的存在。同館は1981年、空襲に特化された資料館として全国に先駆けて建てられたが、そこを訪れるのが長年の夢であった。</p> <p>仙台へ移り、真っ先に訪れたのが戦災復興記念館。焼け野原になった地に建てられたようで、当時の記憶がまるごと封印されたかのような空間で多くを感じることができた。戦災にどうかかわるべきかまだ躊躇していた頃、大震災に遭った。仙台空港から英国製の爆弾が見つかり、河北新報が「震災が掘り起こした戦災」の見出しで報じたことをご記憶の方も</p>	<p>戦災復興記念館は仙台空襲や戦災復興事業に係る記録の保存・展示機能を有し、戦災復興展を開催するなど、本市の戦災復興の資料及び記録を総合的に展示し、市民の努力とその成果を記念する役割を担っております。また、270席の記念ホールがあり、音楽など様々な市民発表会の場としても広く利用されております。</p> <p>令和2年度に行った市内ホール施設の体系整理において、戦災復興記念館は、開館後40年以上が経過している状況も踏まえ「音楽ホール整備後、施設の更新を行わない方向での検討が望ましい」といたしました。これは戦災復興記念館のホール機能に着目した整理であり、保存・展示機能の今後や運営等について併せて検討することを前提としたものでござ</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
	<p>多いと思う。なぜ英国製の爆弾があるのかとても疑問であった。大勢の命が失われ、そこから現出した爆弾。この疑問をそのままにしているは亡くなった方々に申し訳ないの思いが募り、また以前のように調査を開始した。震災があまりにも大きな経験だったが故に、震災の記憶を上書きしてしまうのではないかとこの危惧を抱いたのも調査の要因となった。</p> <p>震災と震災は仙台市民にとって同じように未曾有の体験。これらを切り離すのではなく、両者の体験と復興を対に据えることでより深い思索と明日への学びが得られるのではないかと。一考願いたい。</p>	<p>います。</p> <p>本基本構想P66は、このことに関する記載が不足しておりましたので、いただいたご意見を踏まえ、上記の内容を明記する形に文章を修正いたします。</p> <p>なお、震災復興記念館が果たしてきた震災記録の保存・展示施設としての役割につきましては、その重要性を十分に踏まえ、関係資料の適切な保存や効果的な展示等に係る現状や課題等を整理しながら、どのように存続させるかの検討を進めてまいります。</p> <p>本施設に震災復興記念館の保存・展示機能を移転することは想定していないところですが、災禍からの復興や経験と教訓の伝承という視点が災害伝承に共通すること、理念として「様々な『過去』にまなざしを向け、今を生きる人の糧とし、それをより良い『未来』づくりに生かす」(P8)ことを目指していることから、他施設との連携・協働事業などを通じ、本市の歴史を次世代に伝えていけるよう検討を進めてまいります。</p>
65	<p>芸術文化と災害文化の組み合わせ、一見良さそうだが、今ある震災復興資料はどうなるのか。災禍として組み合わせはどうか。歴史を紐解くと、東日本大震災時との共通点は多々あり、実体験のない世代もより大きな視野で学べると思う。</p>	<p>仙台空襲や震災復興事業に係る資料及び記録の保存・展示や震災復興展の開催、市民の努力とその成果の記念については、震災復興記念館がその役割を担っております。</p> <p>また、270席の記念ホールがあり、音楽など様々な市民発表会の場としても広く利用されております。</p> <p>令和2年度に行った市内ホール施設の体系整理において、震災復興記念館は、開館後40年以上が経過している状況も踏まえ「音楽ホール整備後、施設の更新を行わない方向での検討が望ましい」といたしましたが、これは震災復興記念館のホール機能に着目した整理であり、保存・展示機能の今後や運営等について併せて検討することを前提としたものでございます。</p> <p>本基本構想P66は、このことに関する記載が不足しておりましたので、いただいたご意見を踏まえ、上記の内容を明記する形に文章を修正いたします。</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
		<p>なお、戦災復興記念館が果たしてきた戦災記録の保存・展示施設としての役割につきましては、その重要性を十分に踏まえ、関係資料の適切な保存や効果的な展示等に係る現状や課題等を整理しながら、どのように存続させるかの検討を進めてまいります。</p> <p>本施設に戦災復興記念館の保存・展示機能を移転することは想定していないところですが、災禍からの復興や経験と教訓の伝承という視点が災害伝承に共通すること、理念として「様々な『過去』にまなざしを向け、今を生きる人の糧とし、それをより良い『未来』づくりに生かす」(P8)ことを目指していることから、他施設との連携・協働事業などを通じ、本市の歴史を次世代に伝えていけるよう検討を進めてまいります。</p>
66	<p>新たに建設される音楽ホールはクラシック専用ホールにすべきである。</p> <p>その理由としては、宮城県が県民会館の移転新築を計画しており、現状と同様のいわゆる劇場(多目的ホール)となる見通しである。これに対して仙台市の音楽ホールにもクラシック音楽以外にも対応した多目的性を持たせるとなると、両者の棲み分けが不十分となり、機能の重複が生じてしまうことになるからである。</p> <p>さらなる理由としては、音楽ホールは仙台フィルの本拠地のほか、仙台国際音楽コンクールの会場としても使用されるなど、クラシック専用ホールであることが最大のメリットとなるからである。初期の構想ではミュージザ川崎を手本としていたが、非常に音響に優れたホールであり、手本としては最善と思われる。</p> <p>ちなみに、札幌市ではクラシック専用ホールがKITARA、劇場がHITARUであり棲み分けが行われている。名古屋市の愛知県芸術劇場も劇場の大ホールとクラシック音楽専用ホールのコンサートホールの2つを有しており、やはり棲み分けが行われている。</p> <p>仙台市の音楽ホールと宮城県の新県民会館についても、札幌市や名古屋市のような棲み分けを行うことが最も合理的であり、市民に対しても説明責任が果たせるのではないかと</p>	<p>音楽ホールは、現在の本市の文化芸術活動やホール施設の状況を踏まえ、「仙台の文化芸術の総合拠点」として(P17)、クラシック音楽やオペラ・バレエなど多様な実演芸術の上演が可能な大ホールを備えることとしたものでございます(P39)。</p> <p>望ましいホールの空間容積を確保するとともに、舞台形状、舞台設備、客席構造等の検討にも最先端の技術、最高度の知見を結集することで、高い評価を受けている国内外のクラシック専用ホールと同様の優れた音響性能の実現を目指してまいります。ご意見のとおり、仙台フィルハーモニー管弦楽団の本拠地、仙台国際音楽コンクールの新たな会場とするなど、「楽都仙台」を象徴する拠点としてまいりたいと考えております(P17)。</p> <p>そのためには音響設計が重要であると認識しており、音響設計者の選定や業務推進体制、ホールの音響実験模型の作成の必要性などを含め、効果的なあり方を検討してまいります(P45)。</p> <p>新県民会館との関係につきましては、令和2年度に実施した需要想定調査によって、新たな県民会館の整備後においても音楽ホールに十分な需要が見込めることを確認しております。また、新県民会館は、その基本構想において「大型総合エンタテインメント拠点」を掲げ</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
	<p>考える。</p>	<p>ており、生の音源に対する音響を重視した音楽ホールとはハードの特性・性能面で差別化が図られるものと考えております。また、事業面では県民会館は「県内市町村文化施設の人材育成」などを掲げており、広域自治体と基礎自治体としての適切な役割分担を図ってまいります(P63,P68)。</p>
67	<p>戦災復興記念館、仙台に引っ越してきて、こんなに意義のあるものが街中で誰でも見られると感動したものである。</p> <p>それが亡くなろうとしていることに残念な思いしかない。仙台市は歴史も人々の苦しみも忘れ去ろう、どうでもいいことにしよう、と考えているように思えてならない。</p> <p>戦災を体験した人から話を聞けることも、近い未来叶わなくなる。人は永遠に生きられない。語り部がいなくなるのである。ならばこうした施設で過去を語り継いでいくことに大きな意味があるのに、それを放棄しようとしている。</p> <p>人は簡単に過去を忘れる。</p> <p>戦争の悲惨さを、非道さを、今の世代が伝えていかず、ここで途切れさせるのか。</p> <p>新しい施設を作ったところで、戦禍については触れるのか。仙台市の良いところだけにスポットを当てた、臭い物に蓋をする、上っ面だけの施設にならないか。</p> <p>今の日本中で、薄っぺらい、何も心に残らない施設がごまんと増えているように思えてならない。</p> <p>戦禍と震災を潜り抜けてきた仙台だからこそ、今のような戦災復興記念館を残していく意義と義務がある。</p> <p>痛みも覚えられない、過去をすぐ忘れる、顔のないつまらない街にしないでほしい。</p> <p>次の世代に良いところも過去の傷も恐れず伝えていける仙台でいてほしい。</p> <p>新たな施設を作るなら、戦災復興記念館が今まで築きあげてきたものを無くさないでほしい</p>	<p>戦災復興記念館は仙台空襲や戦災復興事業に係る記録の保存・展示機能を有し、戦災復興展を開催するなど、本市の戦災復興の資料及び記録を総合的に展示し、市民の努力とその成果を記念する役割を担っております。</p> <p>また、270席の記念ホールがあり、音楽など様々な市民発表会の場としても広く利用されております。</p> <p>令和2年度に行った市内ホール施設の体系整理において、戦災復興記念館は、開館後40年以上が経過している状況も踏まえ「音楽ホール整備後、施設の更新を行わない方向での検討が望ましい」といたしました。これは戦災復興記念館のホール機能に着目した整理であり、保存・展示機能の今後や運営等について併せて検討することを前提としたものでございます。</p> <p>本基本構想P66は、このことに関する記載が不足しておりましたので、いただいたご意見を踏まえ、上記の内容を明記する形に文章を修正いたします。</p> <p>なお、戦災復興記念館が果たしてきた戦災記録の保存・展示施設としての役割につきましては、本施設への機能移転は想定していないところですが、その重要性を十分に踏まえ、関係資料の適切な保存や効果的な展示等に係る現状や課題等を整理しながら、どのように存続させるかの検討を進めてまいります。</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
	い。清濁合わせた仙台の歴史を見せてほしい。	
68	<p>音楽ホールと中心部震災メモリアル拠点合築のメリットが明確に感じられない。</p> <p>せんだい3.11メモリアル交流館、荒浜小学校との棲み分けが図れるのか不明である。</p> <p>仙台市と宮城県がそれぞれ2000席の音楽ホール建築を予定しているが、2つも必要なのだろうか。</p> <p>全体的にいえることだが、トップダウンで進めていくのではなく、市民と市が手を携えて丁寧に時間をかけて進めてほしい。</p>	<p>複合化することにつきましては、コスト削減のメリットがあるのは勿論のこと、それぞれが持つ特性を存分に生かしつつ、相互が有機的に連携した事業を展開したり、双方の分野に関わる市民や団体等の交流が進んだりするなど、相乗効果の発揮された、仙台ならではの創造性あふれる施設となることが期待できます。さらに、「3.11(東日本大震災発生の日)」を起点に持つ両施設を複合することにより、復興を象徴する施設として力強いメッセージを打ち出すことができるものと考えています(P2)。</p> <p>中心部震災メモリアル拠点につきましては、津波被害のみならず、内陸部の方を含めた震災の記憶や記録を取り扱い、教訓を後世に伝えていく役割を目指しています(P78)。沿岸部における津波被害や文化を知る役割を担う沿岸部施設との役割分担と効果的な協働体制につきましては、引き続き検討を行ってまいります。</p> <p>新たな県民会館は、その基本構想において「大型総合エンタテインメント拠点」を掲げており、生の音源に対する音響を重視した音楽ホールとはハードの特性・性能面で異なる施設となるものと考えております。また、令和2年度に実施した需要想定調査によって、新たな県民会館の整備後においても音楽ホールに十分な需要が見込めることを確認しております。</p> <p>事業面では、県民会館は「県内市町村文化施設の人材育成」などを掲げており、広域自治体と基礎自治体としての適切な役割分担を図ってまいります(P63,P68)。</p> <p>本基本構想の策定にあたっては、様々な形で市民や関係者の皆様からのご意見を伺ってまいりましたが(P3~P4、P90~P100)、今後の整備過程においても引き続き幅広い意見聴取を行ってまいります。</p>
69	音楽ホールの案、複合施設の役割は良いものと期待するが、戦災復興記念館の廃止は疑	戦災復興記念館は仙台空襲や戦災復興事業に係る記録の保存・展示機能を有し、戦災復

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
	<p>問(66頁)。戦争の記憶を断ち切ることに必然性を感じない。むしろ仙台市で起こった戦争の記憶を受け継ぐことが、未来の在り方を考える糧になると思う。博物館にその役割を譲渡するなどほかの方法が今後の案としてあるのか。</p>	<p>興展を開催するなど、本市の戦災復興の資料及び記録を総合的に展示し、市民の努力とその成果を記念する役割を担っております。また、270席の記念ホールがあり、音楽など様々な市民発表会の場としても広く利用されております。</p> <p>令和2年度に行った市内ホール施設の体系整理において、戦災復興記念館は、開館後40年以上が経過している状況も踏まえ「音楽ホール整備後、施設の更新を行わない方向での検討が望ましい」といたしましたが、これは戦災復興記念館のホール機能に着目した整理であり、保存・展示機能の今後や運営等について併せて検討することを前提としたものでございます。</p> <p>本基本構想P66は、このことに関する記載が不足しておりましたので、いただいたご意見を踏まえ、上記の内容を明記する形に文章を修正いたします。</p> <p>なお、戦災復興記念館が果たしてきた戦災記録の保存・展示施設としての役割につきましては、その重要性を十分に踏まえ、関係資料の適切な保存や効果的な展示等に係る現状や課題等を整理しながら、どのように存続させるかの検討を進めてまいります。</p> <p>本施設に戦災復興記念館の保存・展示機能を移転することは想定していないところですが、災禍からの復興や経験と教訓の伝承という視点が災害伝承に共通すること、理念として「様々な『過去』にまなざしを向け、今を生きる人の糧とし、それをより良い『未来』づくりに生かす」(P8)ことを目指していることから、他施設との連携・協働事業などを通じ、本市の歴史を次世代に伝えていけるよう検討を進めてまいります。</p>
70	<p>移転に関しては理解できるが、縮小・廃止という方向性に関しては反対。</p> <p>東北地方においては戦争による空襲に限らず震災や飢饉など大きな災禍を記録し、展示を通して実感できる場を設えることは非常に重要な責務である。昨今の世界情勢を鑑みても遠い場所で起きていることを自らの状況に引き寄せて考えられるような場が今後も残り</p>	<p>戦災復興記念館は仙台空襲や戦災復興事業に係る記録の保存・展示機能を有し、戦災復興展を開催するなど、本市の戦災復興の資料及び記録を総合的に展示し、市民の努力とその成果を記念する役割を担っております。また、270席の記念ホールがあり、音楽など様々な市民発表会の場としても広く利用されております。</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
	<p>続ける、あるいはそういった場を作ることに限らず一層力を入れても良いと思う。</p> <p>私としてはウクライナとロシアに限らず、紛争などが常にどこかで起きている現状や、それがなぜどういった社会構造で起きてしまっているのかなど。戦争を経験した国だからこそ市民同士で過去や現在の状況について学び合い、よりよい未来について考えていける場ができればと願っている。</p>	<p>令和2年度に行った市内ホール施設の体系整理において、戦災復興記念館は、開館後40年以上が経過している状況も踏まえ「音楽ホール整備後、施設の更新を行わない方向での検討が望ましい」といたしました。これは戦災復興記念館のホール機能に着目した整理であり、保存・展示機能の今後や運営等について併せて検討することを前提としたものでございます。</p> <p>本基本構想P66は、このことに関する記載が不足しておりましたので、いただいたご意見を踏まえ、上記の内容を明記する形に文章を修正いたします。</p> <p>なお、戦災復興記念館が果たしてきた戦災記録の保存・展示施設としての役割につきましては、その重要性を十分に踏まえ、関係資料の適切な保存や効果的な展示等に係る現状や課題等を整理しながら、どのように存続させるかの検討を進めてまいります。</p> <p>本施設に戦災復興記念館の保存・展示機能を移転することは想定していないところですが、災禍からの復興や経験と教訓の伝承という視点が災害伝承に共通すること、理念として「様々な『過去』にまなざしを向け、今を生きる人の糧とし、それをより良い『未来』づくりに生かす」(P8)ことを目指していることから、他施設との連携・協働事業などを通じ、本市の歴史を次世代に伝えていけるよう検討を進めてまいります。</p>
71	<p>①仙台は文化面がかなり弱い都市であるため、仙台の文化芸術の総合拠点として音楽ホールの事業運営を考えるのは良いと思う。</p> <p>ただ震災事業については、震災メモリアル事業ですで見学コースを作っている拠点の充実を図っていく方が事業としては良いと考える。</p> <p>②宮城県は特に田舎の県の域を出ず、数々の失敗(県立図書館、グランディ、水族館)をしてきているが、仙台市も何かを考える際、利権に囚われた事業の進め方がまだまだ根強く</p>	<p>①につきましては、震災メモリアル事業で既に整備している拠点につきましては、引き続き沿岸部の津波被害の状況や経験と記憶、地域の歴史や文化を後世に伝えていく役割を果たしていくとともに、中心部拠点との効果的な役割分担や連携のあり方につきまして検討を進めてまいります。</p> <p>②につきましては、本施設は基本理念に「人・文化・まちを育む創造の広場」を掲げ、「様々な『過去』にまなざしを向け、今を生きる人の糧とし、それをより良い『未来』づくりに生かし</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
	<p>残っていると感じる。市民のための事業なのか、よく熟考して決めてほしい。</p> <p>仙台駅東口の区画整理についても、結局街は崩壊し、杜の都とは名ばかりの、暮らしにくい住宅街となった。こういった失敗を繰り返さないよう、よくよく考えてほしい。</p> <p>市民会館や戦災復興記念館についても再考の必要性を感じる。震災の経験だけでなく、戦災についても継承していくことがとても大切である。</p> <p>視野を広げ、未来を見つめて、どんな世代も暮らしやすい街になるよう、市民みんなで考えていけたらと切に願う。</p>	<p>ていく」との考え方を記しております(P8)。こうした視点を大切にしながら、引き続き市民の皆様のご意見を幅広く伺い、整備に向けた検討を進めてまいります。</p> <p>また、市民会館・戦災復興記念館は開館から40年以上が経過しておりますが、仙台市公共施設総合マネジメントプランでは、旧耐震基準の建築物である当該2館についての計画保全年数(計画的な保全措置を実施し、長期に使用していくことを目的に設定された期間)を50年としているところでございます。こうしたことから、令和2年度に行った市内ホール施設の体系整理において、「音楽ホール整備後、施設の更新を行わない方向での検討が望ましい」といたしました。これはホール機能に着目した整理であり、特に戦災復興記念館については、その保存・展示機能の今後や運営等について併せて検討することを前提としたものでございます。</p> <p>本基本構想P66は、このことに関する記載が不足しておりましたので、いただいたご意見を踏まえ、上記の内容を明記する形に文章を修正いたします。</p> <p>なお、戦災復興記念館が果たしてきた戦災記録の保存・展示施設としての役割につきましては、本施設への機能移転は想定していないところですが、その重要性を十分に踏まえ、関係資料の適切な保存や効果的な展示等に係る現状や課題等を整理しながら、どのように存続させるかの検討を進めてまいります。</p>
72	<p>新規に整備される施設に戦災復興記念館が含まれないこと、施設の更新を行わないとされていることに驚いている。復興というテーマが震災と重複するという判断なのか。資料からは理由が読み取れないが是非とも再考いただきたい。</p> <p>現在の仙台市の姿は戦災からの復興を基礎とするものである。仙台市の歴史の中に非常に大きな部分を占め、現在の基礎となったものを伝えていくことに市が消極的であるのなら残念でならない。</p>	<p>戦災復興記念館は仙台空襲や戦災復興事業に係る記録の保存・展示機能を有し、戦災復興展を開催するなど、本市の戦災復興の資料及び記録を総合的に展示し、市民の努力とその成果を記念する役割を担っております。また、270席の記念ホールがあり、音楽など様々な市民発表会の場としても広く利用されております。</p> <p>令和2年度に行った市内ホール施設の体系整理において、戦災復興記念館は、開館後40年以上が経過している状況も踏まえ「音楽ホール整備後、施設の更新を行わない方向での</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
	<p>戦災と震災、近代以降に経験した 2 つの大きな災害から力強く復興してきたことは仙台市のアピールポイントではないのか。空襲に焼かれた時も、未曾有の自然災害に襲われた時も、膝を折ることなく進んできた故郷を誇りに思っている。</p> <p>また、復興計画のある仙台城は明治以降の市の歴史の中でも重要な位置にあり、もちろん空襲による被害も受けている。伊達家、仙台藩のみならず仙台市民と共にあった仙台城であるから、近現代史における歩みも忘れられることなく語られてほしい。</p>	<p>検討が望ましい」といたしました。これは戦災復興記念館のホール機能に着目した整理であり、保存・展示機能の今後や運営等について併せて検討することを前提としたものでございます。</p> <p>本基本構想P66は、このことに関する記載が不足しておりましたので、いただいたご意見を踏まえ、上記の内容を明記する形に文章を修正いたします。</p> <p>なお、戦災復興記念館が果たしてきた戦災記録の保存・展示施設としての役割につきましては、その重要性を十分に踏まえ、関係資料の適切な保存や効果的な展示等に係る現状や課題等を整理しながら、どのように存続させるかの検討を進めてまいります。</p> <p>本施設に戦災復興記念館の保存・展示機能を移転することは想定していないところですが、災禍からの復興や経験と教訓の伝承という視点が災害伝承に共通すること、理念として「様々な『過去』にまなざしを向け、今を生きる人の糧とし、それをより良い『未来』づくりに生かす」(P8)ことを目指していることから、他施設との連携・協働事業などを通じ、本市の歴史を次世代に伝えていけるよう検討を進めてまいります。</p>
73	<p>震災だけでなく、他にも後世に伝えるべきものはあると思う。土地々々に残しておくべき戦災の資料も含んでの再考をお願いしたい。</p> <p>以前仙台に観光を目的に訪れたことがあるが、仙台独特の文化的な施設の細やかさ、完成度の高さに驚いた。その仙台らしさを戦争の歴史にも触れるという形で見てみたい。</p>	<p>仙台空襲や戦災復興事業に係る資料及び記録の保存・展示や戦災復興展の開催、市民の努力とその成果の記念については、戦災復興記念館がその役割を担っております。</p> <p>また、270席の記念ホールがあり、音楽など様々な市民発表会の場としても広く利用されております。</p> <p>令和2年度に行った市内ホール施設の体系整理において、戦災復興記念館は、開館後40年以上が経過している状況も踏まえ「音楽ホール整備後、施設の更新を行わない方向での検討が望ましい」といたしました。これは戦災復興記念館のホール機能に着目した整理であり、保存・展示機能の今後や運営等について併せて検討することを前提としたものでございます。</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
		<p>本基本構想P66は、このことに関する記載が不足しておりましたので、いただいたご意見を踏まえ、上記の内容を明記する形に文章を修正いたします。</p> <p>なお、戦災復興記念館が果たしてきた戦災記録の保存・展示施設としての役割につきましては、その重要性を十分に踏まえ、関係資料の適切な保存や効果的な展示等に係る現状や課題等を整理しながら、どのように存続させるかの検討を進めてまいります。</p> <p>本施設に戦災復興記念館の保存・展示機能を移転することは想定していないところですが、災禍からの復興や経験と教訓の伝承という視点が災害伝承に共通すること、理念として「様々な『過去』にまなざしを向け、今を生きる人の糧とし、それをより良い『未来』づくりに生かす」(P8)ことを目指していることから、他施設との連携・協働事業などを通じ、本市の歴史を次世代に伝えていけるよう検討を進めてまいります。</p>
74	<p>同様の意見が一部の市民の声かけにより多く寄せられているかと思うが、戦災復興記念館を存続しないことについて反対する。</p> <p>大学在学中に仙台に住み、東日本大地震を経験している。</p> <p>音楽ホールの価値、基本計画内で語られる文化の素晴らしさは否定しない。</p> <p>しかし、過去の戦争のことを保管、継承する重要な役割を持つ施設を市として存続させないことには強く反対する。</p> <p>東日本大地震における災害被害や経験が他の地の他の災害のそれと代えられないように、仙台の戦災被害や経験しか語られないものがあると思う。生きた経験者が少なくなる中で、そういった施設を民間で維持するのはより難しくなるのではと考える。</p> <p>また、資料内記載の仕方には意図的なものを感じ、とても残念。心配でならない。</p> <p>複合施設の主要な目的である東日本大地震においても辛い思いをしている市民もまだいて課題は残っていることを考えると、同様に軽んじられるのではないかと考えてしまう。</p>	<p>戦災復興記念館は仙台空襲や戦災復興事業に係る記録の保存・展示機能を有し、戦災復興展を開催するなど、本市の戦災復興の資料及び記録を総合的に展示し、市民の努力とその成果を記念する役割を担っております。また、270席の記念ホールがあり、音楽など様々な市民発表会の場としても広く利用されております。</p> <p>令和2年度に行った市内ホール施設の体系整理において、戦災復興記念館は、開館後40年以上が経過している状況も踏まえ「音楽ホール整備後、施設の更新を行わない方向での検討が望ましい」といたしましたが、これは戦災復興記念館のホール機能に着目した整理であり、保存・展示機能の今後や運営等について併せて検討することを前提としたものでございます。</p> <p>本基本構想P66は、このことに関する記載が不足しておりましたので、いただいたご意見を踏まえ、上記の内容を明記する形に文章を修正いたします。</p> <p>なお、戦災復興記念館が果たしてきた戦災記録の保存・展示施設としての役割につきまし</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
	<p>震災被害も戦災被害も均質化され薄く浅い展示が残り、耳触りがよく実のない文化継承になってしまわないか心配している。</p> <p>今はまだ幼いわが子を連れて仙台を訪ねた際に、戦災復興記念館も、新しい複合施設も、子に見せたい場所として残っていることを願う。</p>	<p>では、その重要性を十分に踏まえ、関係資料の適切な保存や効果的な展示等に係る現状や課題等を整理しながら、どのように存続させるかの検討を進めてまいります。</p> <p>本施設に戦災復興記念館の保存・展示機能を移転することは想定していないところですが、災禍からの復興や経験と教訓の伝承という視点が災害伝承に共通すること、理念として「様々な『過去』にまなざしを向け、今を生きる人の糧とし、それをより良い『未来』づくりに生かす」(P8)ことを目指していることから、他施設との連携・協働事業などを通じ、本市の歴史を次世代に伝えていけるよう検討を進めてまいります。</p>
75	<p>戦災復興記念館の展示資料を保存し、戦災な記憶を伝えていくための施設は維持してほしい。東北で数少ない戦争の記憶を伝承する施設は廃止しないでほしい。</p> <p>今後、戦災復興記念館の存在意義が高まることはあっても絶対に減ることはない。なくすべきではない。</p>	<p>戦災復興記念館は仙台空襲や戦災復興事業に係る記録の保存・展示機能を有し、戦災復興展を開催するなど、本市の戦災復興の資料及び記録を総合的に展示し、市民の努力とその成果を記念する役割を担っております。また、270席の記念ホールがあり、音楽など様々な市民発表会の場としても広く利用されております。</p> <p>令和2年度に行った市内ホール施設の体系整理において、戦災復興記念館は、開館後40年以上が経過している状況も踏まえ「音楽ホール整備後、施設の更新を行わない方向での検討が望ましい」といたしました。これは戦災復興記念館のホール機能に着目した整理であり、保存・展示機能の今後や運営等について併せて検討することを前提としたものでございます。</p> <p>本基本構想P66は、このことに関する記載が不足しておりましたので、いただいたご意見を踏まえ、上記の内容を明記する形に文章を修正いたします。</p> <p>なお、戦災復興記念館が果たしてきた戦災記録の保存・展示施設としての役割につきましては、本施設への機能移転は想定していないところですが、その重要性を十分に踏まえ、関係資料の適切な保存や効果的な展示等に係る現状や課題等を整理しながら、どのように存続させるかの検討を進めてまいります。</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
76	<p>楽都仙台、震災記念の拠点の念願が果たされる計画大いに期待する。一方戦前の「森の都」の消滅、「杜の都」の復興の存立にもかかわる「戦災復興記念館」の要素が、この重要な施設に含まれないのは残念。</p> <p>学生時代を仙台ですごし、この記念館に教えられた。</p> <p>悲しくも2つの災害を経験した仙台だが、だからこそ未来への可能性を感じる。</p> <p>芸術、文化、戦争、悲劇と復興の記録を複合的に残し、表現し、伝え続けることこそ、ますます混迷の世界の中で、平和と平等を伝え、SDGsの精神にもかない、日本全国、「国際社会において、名誉ある地位を占める」のではないかと、仙台市にさらなる期待をする。ぜひ「全力をあげてこの崇高な理想と目的を達成」してほしいと願う。</p>	<p>仙台空襲や戦災復興事業に係る資料及び記録の保存・展示や戦災復興展の開催、市民の努力とその成果の記念については、戦災復興記念館がその役割を担っております。</p> <p>また、270席の記念ホールがあり、音楽など様々な市民発表会の場としても広く利用されております。</p> <p>令和2年度に行った市内ホール施設の体系整理において、戦災復興記念館は、開館後40年以上が経過している状況も踏まえ「音楽ホール整備後、施設の更新を行わない方向での検討が望ましい」といたしました。これは戦災復興記念館のホール機能に着目した整理であり、保存・展示機能の今後や運営等について併せて検討することを前提としたものでございます。</p> <p>本基本構想P66は、このことに関する記載が不足しておりましたので、いただいたご意見を踏まえ、上記の内容を明記する形に文章を修正いたします。</p> <p>なお、戦災復興記念館が果たしてきた戦災記録の保存・展示施設としての役割につきましては、その重要性を十分に踏まえ、関係資料の適切な保存や効果的な展示等に係る現状や課題等を整理しながら、どのように存続させるかの検討を進めてまいります。</p> <p>本施設に戦災復興記念館の保存・展示機能を移転することは想定していないところですが、災禍からの復興や経験と教訓の伝承という視点が災害伝承に共通すること、理念として「様々な『過去』にまなざしを向け、今を生きる人の糧とし、それをより良い『未来』づくりに生かす」(P8)ことを目指していることから、他施設との連携・協働事業などを通じ、本市の歴史を次世代に伝えていけるよう検討を進めてまいります。</p>
77	<p>今回の新複合施設はいつ頃壊す予定で建てるのか。</p> <p>戦後の焼け野原で公共施設など建物を建てるのが復興へと繋がり、311 震災の後もや</p>	<p>仙台市公共施設総合マネジメントプランにおいて、新耐震基準適用の大規模文化施設の計画保全年数(計画的な保全措置を実施し、長期に使用していくことを目的に設定された期</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
	<p>はり建てるのが復興へと繋がったが、自然災害で壊れるのと人の手で壊すのとは意味が大きく異なる。スクラップ&ビルドのまちづくりはもう終わりにしても良いのではないか。</p> <p>既存の施設を大切に活用していくことが現代の私たちに求められていると思う。</p> <p>また、今回のパブコメは市政だより 6 月号 4 ページに記載するなど、パブコメに限らずとも市民に広く知ってもらう市の積極的な姿勢を望む。</p> <p>否定的な意見も書いたが未来の負債とならないよう、自慢の仙台市となるように丁寧にすすめてほしい。</p> <p>東京に行ったときに「上野に行けば何か楽しいこと(文化施設、近代建築など歴史的建造物が多いので)がある!」と思うように「仙台の青葉山エリアに行けば楽しいことがある!」となるようにと思う。</p>	<p>間)を 80 年としており、本施設もこの考え方に沿って維持していくものと考えております。</p> <p>市民の皆様に対しては、検討状況をお伝えし、幅広くご意見を伺うための取組みを、今後とも工夫してまいります。</p> <p>また、令和 5 年 3 月に策定した「仙台・青葉山エリア文化観光交流ビジョン」(P6)の中で、青葉山エリアの価値や魅力、回遊性の向上に向けた方向性等をお示したところです。周辺施設とも連携しながら、青葉山エリア及び隣接する都心部も含めた一帯に賑わいを生む施設となるよう、今後とも検討を進めてまいります。</p>
78	<p>今回の複合施設は東日本大震災の継承施設と音楽ホールで、資料中に小さく戦災復興記念館は更新せずと書かれている。空襲や戦災の記録などは別途保存展示を検討するという報道が 2020 年にあったようだが、その後の進捗を確認できない。計画への意見を求めるならば、戦災復興記念館の現施設を断念した後の計画についても記載があるべき。こちらの複合施設には含まれないのかということも、可能性の有無も記載されていない。</p> <p>震災のみが仙台の歴史的な出来事ではなく、人災と天災の違いはあれど、空襲もまた現在に至るまで大きな歴史的な出来事である。また、その施設は被災地にあつてこそ意味があり、その点では現在地にあることの意味も大きい。</p> <p>ホール機能はなくした形で更新することを選択肢として検討すべき。</p> <p>中間案の基本理念には、「また、3.11 を起点に持つこの複合施設は、数々の災害を乗り越え生きてきた人々の営みをはじめ、先人たちの文化芸術活動の足跡など、様々な『過去』にまなざしを向け、今を生きる人の糧とし、それをより良い『未来』づくりに生かしていくこと</p>	<p>戦災復興記念館は仙台空襲や戦災復興事業に係る記録の保存・展示機能を有し、戦災復興展を開催するなど、本市の戦災復興の資料及び記録を総合的に展示し、市民の努力とその成果を記念する役割を担っております。また、270席の記念ホールがあり、音楽など様々な市民発表会の場としても広く利用されております。</p> <p>令和2年度に行った市内ホール施設の体系整理において、戦災復興記念館は、開館後40年以上が経過している状況も踏まえ「音楽ホール整備後、施設の更新を行わない方向での検討が望ましい」といたしました。これは戦災復興記念館のホール機能に着目した整理であり、保存・展示機能の今後や運営等について併せて検討することを前提としたものでございます。</p> <p>本基本構想P66は、このことに関する記載が不足しておりましたので、いただいたご意見を踏まえ、上記の内容を明記する形に文章を修正いたします。</p> <p>戦災復興記念館が果たしてきた戦災記録の保存・展示施設としての役割につきましても、そ</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
	<p>のできる施設になる必要があると考えます。」との文言があるが、戦災へのまなざしを欠いた今回の中間案を見るに、空文と言わざるをえない。数々の災害が何を指し、空襲は含まれるのか、早急な検討と計画への反映を求める。</p> <p>また、せんだいメディアテークはその活動で国内外から注目されているが、その立地でも分かるように、仙台市として文化施設集約の方針とはいえ、その例外もある。せんだいメディアテークのほかにも、晩翠草堂など、市の中心部にも文化施設があるのが仙台市の長所でもあり、その点で戦災復興記念館もその両者の線上にあり、回遊性や地域の特色を学ぶのに大きな役割を果たしてき、また今後も果たせるものと思う。</p> <p>何度か仙台を訪れ、国際センター周辺も歩き、伊達政宗像の見学もした。仙台市のサイトから仙台防災ハザードマップを見ると、国際センター東側は洪水の危険地域に、山側には土砂崩れの危険地域があり、国際センター駅周辺には早期の避難が必要な地域が広く想定されていることが分かる。</p> <p>3.11 の教訓を掲げながら、これでは災害に強い施設となるのかはなはだ不安である。仮に、複合施設に戦災・空襲が含まれたとしても、関連資料の恒久的な保存環境として適しているのかは、はなはだ疑問。</p> <p>博物館では、川崎市市民ミュージアムの浸水被害の発生は、大きな衝撃と共に伝えられ、まだその回復は途上にある。震災だけが災害でなく、様々なリスクが考えられる昨今、市の中心部にあり、ハザードマップに何等の記載のない戦災復興記念館については、現在地での更新を最優先に検討すべきではないかと考える。</p> <p>また、資料の活用、証言の継承などで、東日本大震災の先を行く成果を上げている空襲に関して、もっとその蓄積に学び、活かす形で、東日本大震災をどう語り継いでいくべきか、より検討を重ねられることが、この施設にとってもいい道であろうと思う。その点で、空襲と東日本大震災を分けるのではなく、車の両輪として考えるようなプランの提示があってしかる</p>	<p>の重要性を十分に踏まえ、関係資料の適切な保存や効果的な展示等に係る現状や課題等を整理しながら、どのように存続させるかの検討を進めてまいります。</p> <p>本施設に戦災復興記念館の保存・展示機能を移転することは想定していないところですが、災禍からの復興や経験と教訓の伝承という視点が災害伝承に共通すること、理念として「様々な『過去』にまなざしを向け、今を生きる人の糧とし、それをより良い『未来』づくりに生かす」(P8)ことを目指していることから、他施設との連携・協働事業などを通じ、本市の歴史を次世代に伝えていけるよう検討を進めてまいります。</p> <p>なお、本施設の整備予定地自体は「仙台防災ハザードマップ」においていずれの指定区域にも該当しておらず、また、国際センター駅東側の洪水浸水想定区域(河川敷)とは高低差があることを申し添えます。</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
	<p>べきであり、また仙台市にはその土台もポテンシャルも、実践力もあるように思う。</p> <p>なお、仙台市博物館はがけ崩れの対象地域となっており、複合施設建設より前にこうした多くの市民が訪れ、貴重な資料を収蔵している既存施設のハザードマップでの注意喚起エリアからの移転等も、震災の教訓を重く考えている仙台市であれば、まず検討されるべき方向性ではないか。言うまでもなく、東日本大震災では、多くの文化施設も津波等で大きな被害を受け、収蔵品の流出などが発生した。その教訓を活かし、天災の際の人災的側面が極力縮減するような施策がとられますことを切に願う。</p>	
79	<p>新総合施設ができると聞いた。東日本大震災のことも取り上げられるメモリアルの展示などあるのかなと思う。</p> <p>しかし、戦災復興記念館が吸収され、その内容がいつの間にか忘れられては困る。</p> <p>戦後、多くの方が語ることでできなかった戦争のことを「今、語らなければ忘れられてしまう。未来の子どもたちを守らなければ」という思いで語ってくれる人がいる。ぜひともこの思いが平和を守る大きな力になることをわかっていただきたい。記念館を残すか新たな施設に生かすかしてほしい。</p>	<p>戦災復興記念館は仙台空襲や戦災復興事業に係る記録の保存・展示機能を有し、戦災復興展を開催するなど、本市の戦災復興の資料及び記録を総合的に展示し、市民の努力とその成果を記念する役割を担っております。また、270席の記念ホールがあり、音楽など様々な市民発表会の場としても広く利用されております。</p> <p>令和2年度に行った市内ホール施設の体系整理において、戦災復興記念館は、開館後40年以上が経過している状況も踏まえ「音楽ホール整備後、施設の更新を行わない方向での検討が望ましい」といたしました。これは戦災復興記念館のホール機能に着目した整理であり、保存・展示機能の今後や運営等について併せて検討することを前提としたものでございます。</p> <p>本基本構想P66は、このことに関する記載が不足しておりましたので、いただいたご意見を踏まえ、上記の内容を明記する形に文章を修正いたします。</p> <p>なお、戦災復興記念館が果たしてきた戦災記録の保存・展示施設としての役割につきましては、その重要性を十分に踏まえ、関係資料の適切な保存や効果的な展示等に係る現状や課題等を整理しながら、どのように存続させるかの検討を進めてまいります。</p> <p>本施設に戦災復興記念館の保存・展示機能を移転することは想定していないところで</p>

番号	中間案に対するご意見	仙台市の考え方
		<p>が、災禍からの復興や経験と教訓の伝承という視点が災害伝承に共通すること、理念として「様々な『過去』にまなざしを向け、今を生きる人の糧とし、それをより良い『未来』づくりに生かす」(P8)ことを目指していることから、他施設との連携・協働事業などを通じ、本市の歴史を次世代に伝えていけるよう検討を進めてまいります。</p>